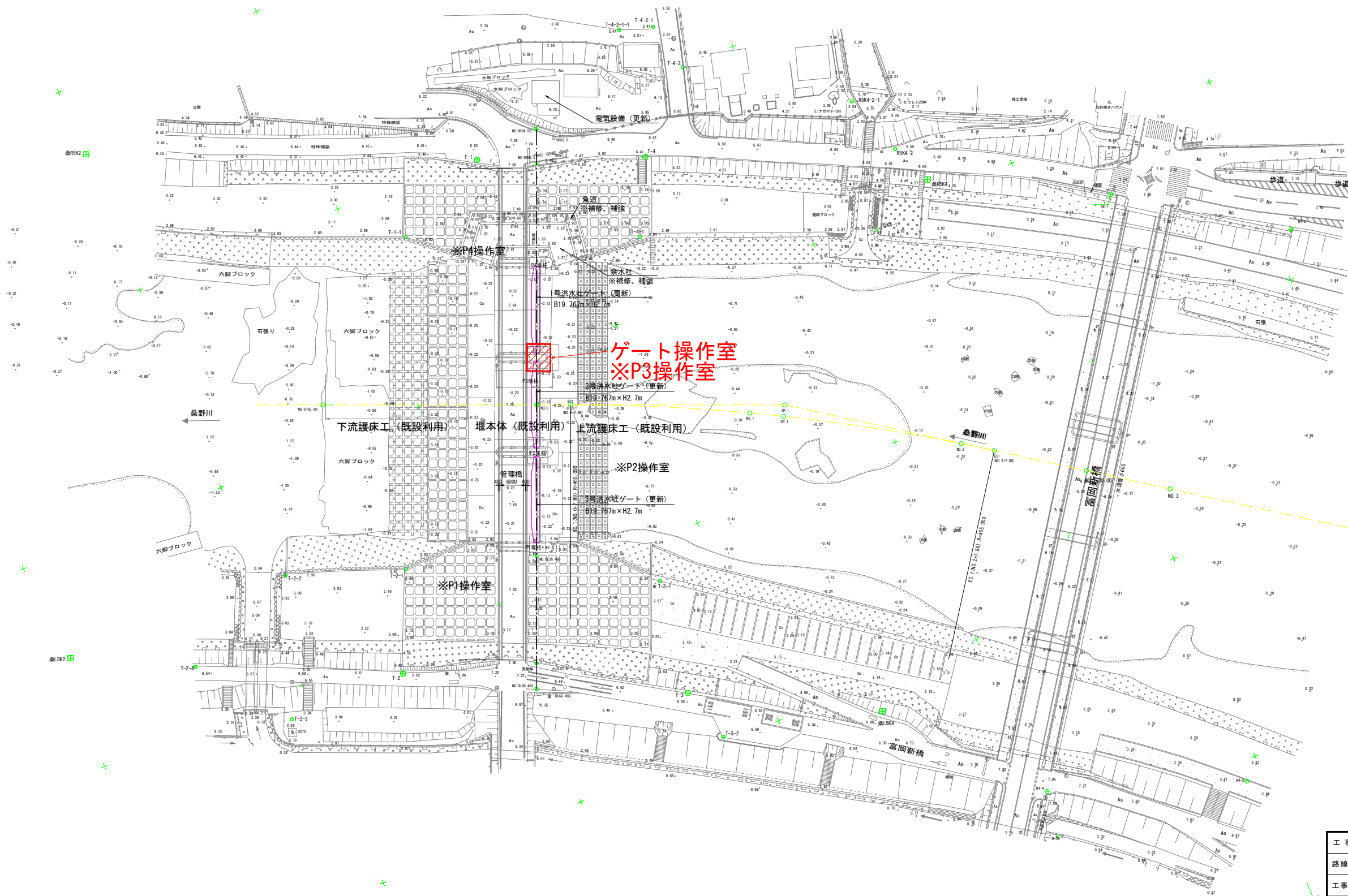


一般計画平面図

S=1:500



工事名	R8阿南 新設対策 一の堰 操作室改修工事 (諸指)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図面名	一般計画平面図		
縮尺	S=1:500	図面番号	1
会社名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

ゲート操作室建築工事特記仕様書

の堰 工事設計図

令和 年 月 (全 枚)

特記仕様書

I 工事概要

1. 工事場所

徳島県阿南市富岡町

2. 敷地面積

3. 工事種目

1. 建物
1) 堰上屋 鉄骨造 平家建て

1. 設備

1) 電気設備

4. 工事範囲

※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち の工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

2 仮設工事	工事範囲すべて
3 土工	
4 地盤工事	
5 鉄筋工事	
6 コンクリート工事	
7 鉄骨工事	
8 コンクリートブロック・ALCパネル ・押出成形セメント板工事	
9 防水工事	
10 石工事	
11 タイル工事	
12 木工事	
13 屋根及びとい工事	
14 金属工事	
15 左官工事	
16 建具工事	
17 カーテンウォール工事	
18 塗装工事	
19 内装工事	
20 ユニット及びその他の工事	

II 建築工事仕様

1. 標準仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和7年版）」（以下「標準仕様書」という。）による。

2. 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（ ）図、機械設備工事の特記仕様書は（ ）図による。

3. 特記仕様書の表記

(1) 項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○ 印の付いたものを適用する。
○ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○ 印と ○ 印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4) [G] 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に定める判断の基準を満たす物品を示す。

章

項目

特記事項

○ 一般共通事項

① 適用基準等

図面、本特記仕様書、標準仕様書に記載のない事項は次の基準による。
・建築物解体工事共通仕様書（平成24年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部
・本設計図書における「標準詳細図」とは、次の基準を指す。
・建築工事標準詳細図（平成28年版） 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課
その他
・営繕工事写真撮影要領（平成24年版）・同解説 工事写真の撮り方 建築編 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
・営繕工事写真撮影要領 平成28年版 工事写真撮影ガイドブック 建築工事編（地業工事）及び解体工事編 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

2 工事実績情報の登録

※適用する

③ 適用区分

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
○風圧力
風速（Vo= 36 m/s）
地表面粗度区分（Ⅰ Ⅱ ○Ⅲ Ⅳ）
・積雪荷重
建設省告示第1455号における区域 別表（ ）

4 電気保安技術者

※適用する

⑤ 施工条件

下記以外は現場説明書による。
・工事用車両の駐車場所 ※図示 ・
・資機材置場 ※図示 ・
・建設発生土仮置場 ※図示 ・
・ ※図示 ・

⑥ 発生材の処理等

※現場説明書による ・構外搬出適切処理 ・

⑦ 環境への配慮

(1. 4. 1)

⑧ 材料の品質等

(1. 4. 2)

⑨ 技能士

(1. 5. 2)

適用工事種類	技能検定作業
仮設工事	○とび作業
鉄筋工事	・鉄筋組立て作業
コンクリート工事	・型枠工事作業 ・コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事	○構造物鉄工作業 ・とび作業
コンクリートブロック	○コンクリートブロック工事作業
・ALCパネル	・エーエルシーパネル工事作業
・押出成形セメント板工事	
防水工事	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ○シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートーチ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	・石張り作業
タイル工事	・タイル張り作業
木工事	・大工工事作業
屋根及びとい工事	○内外装板金作業 ・スレート工事作業
金属工事	○鋼製地下工事作業 ・内外装板金作業
左官工事	・左官作業
建具工事	○ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業
カーテンウォール工事	・金属製カーテンウォール工事作業 ・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	○建築塗装作業
内装工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業
排水工事	・建築配管作業
舗装工事	・溶融ベイントハンドマーカ－工事作業 ・加熱ベイントマシンマーカ－工事作業
植栽工事	・造園工事作業

(1. 5. 9)

(1) 屋内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、測定結果を監督員に報告する。
(2) 測定対象室及び測定箇所は仕上表による。
(3) 測定は、バツシブ型採取機器により行う。
(4) 測定方法及び測定結果の報告は、現場説明書による。

⑩ 完成時の提出図書

(1. 7. 1～3) (表1. 7. 1)

※完成図書 提出部数 ※ (A3版 原図及び複写図(2部))
C A Dデータ ※提出する
※保全に関する資料 提出部数 ※2部

⑪ 完成写真

工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	画素数・画質等
・カラー ※キャビネ版	外部（ ）内部（ ）	※2 ・	※500万画素以上
	外観正面（※1 ・）	※5 ・	
・			
・カラー四切木製パネル	外部（ ）内部（ ）	※2 ・	
・カラー半切木製パネル	外部（ ）内部（ ）	※2 ・	
・電子データ	外部（ ）内部（ ）	※2 ・	※500万画素以上

電子データは、RGB(フルカラー)、JPEG形最高画像とし、QD-Rにて提出する。
・建築写真の撮影実績があるもので、監督職員が承諾する撮影業者
・任意

⑫ 他工事又は他工種との取合い

工事区分表による。これにより難い場合は監督職員と協議する。

⑬ 設計 G L

※図示 ・（ ）

⑭ 仮設工事

(2. 2. 4)

① 足場その他

・「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

(2. 3. 1)

② 監督職員事務所

※設けない
規模及び仕上りの程度は現場説明書による。

③ 工事用水

構内既存の施設 ※利用できる（※有償）

④ 工事用電力

構内既存の施設 ※利用できる（※有償）

3 土工

(3. 2. 3)

1 埋戻し及び盛土

埋戻し及び盛土の種類
・ A 種 適用場所（ ）
・ B 種 適用場所（ ）
・ C 種 適用場所（ ）土質（ ）受渡場所（ ）
・ D 種 適用場所（ ）

(3. 2. 5)

2 建設発生土の処理

・構外搬出適切処理
・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に敷均し

(3. 3. 3)

3 山留めの存置

存置範囲（※図示 ・ ）

4 地業工事

1 支持地盤

・杭基礎 (4. 3. 4. 5) (4. 5. 4. 5)
支持地盤の位置及び種類（基礎ぐいの先端位置含む）
・図示による（ ）
・直接基礎
支持地盤の位置及び種類（基礎底部の位置含む）
・図示による（ ）
試験掘り（根切り底の状態の確認等） (3. 2. 1)
・行わない
・行う
位置等 ・図示による（ ）
・杭の載荷試験 (4. 2. 3)
試験の位置、方法等
・図示による（ ）
・地盤の載荷試験 (4. 2. 4)
試験の位置、方法等
・図示による（ ）

(4. 3. 2)

2 既製コンクリート杭地業

種類 (4. 3. 2)
・適心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・外敷鋼管付コンクリート杭（SC杭）
SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490 ・
寸法、継手、性能等（種別：種類、性能及び曲げ強度区分） (4. 2. 2) (4. 3. 2) (4. 3. 3)

	種類	コンクリート強度 (N/mm ²)	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭	上杭								
	中杭								
	下杭								
本 杭	上杭								
	中杭								
	下杭								

杭先端部形状 (4. 3. 2)
・開放形 ・半開放形 ・閉そく形 ・
施工方法 (4. 3. 3～5)
・打込み工法 （・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ・）
・プレローリングの併用
・行わない
・行う
掘削深さ及び径
・図示による（ ）
杭の精度
水平方向の位置ずれ
試験杭 (4. 2. 2) (4. 3. 3)
試験杭の位置
・図示による（ ）
打込み杭の推定支持力の算定方法
・図示による（ ）
・セメントミルク工法 (4. 2. 2) (4. 3. 4)
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ
・
杭の支持地盤への根入れ深さ
杭の精度
・水平方向の位置ずれ
・
試験杭
試験杭の位置
・図示による（ ）
・特定埋込杭工法 (4. 2. 2) (4. 3. 5)
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式でα=250を採用できる工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力方式の内α、β、γが以下の値を採用できる工法
α=（ ）、β=（ ）、γ=（ ）
工法
・プレローリング拡大根固め工法
・中掘り拡大根固め工法
・
杭の精度 (4. 3. 5)
・水平方向の位置ずれ
・
試験杭
試験杭の位置
・図示による（ ）
杭継手工法 (4. 3. 2) (4. 3. 6) (7. 2. 5)
・アーク溶接継手
溶接材料
・標準仕様書7. 2. 5(a) (b)による
・図示による（ ）
・
・無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
工法
※審査（評定等）を受けた工法 ・
検査
※審査（評定等）により定められた項目 ・
施工
※審査（評定等）された施工管理基準による ・
杭頭の処理 (4. 3. 7)
・処理しない
・処理する
処理方法（切断に伴う補強方法含む）
・図示による（ ）
杭頭の中詰め材料 (4. 3. 7)
・

工 事 名	R 8阿南 前設計第一の堰 操作室改修工事 (後掲)		
路線名等	一の 堰 地 区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書 (1/9)		
縮 尺	-	図面番号	2-1
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

4 地業工事へ続く	3 鋼杭地業	種類の記号 (4. 4. 2) ・SKK400 ・SKK490 ・ 寸法、継手等 (4. 2. 2) (4. 4. 2)	5 鉄筋工事	鉄筋かごの補強 (4. 5. 3) ・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは、補強材の幅とする。 ・ 鉄筋の最小かぶり厚さ (4. 5. 3) ・ 鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ (4. 5. 3～4. 5. 5) ・図示による () ・ セメントの種類 (4. 5. 3) ・高炉セメントB種 ・ コンクリートの種別 (4. 5. 3) ・A種 ・B種 コンクリートの設計基準強度 (Fc) (4. 5. 3) ・図示による () ・ 構造体強度補正値 (S) (4. 5. 3) ・3N/mm ² ・ ・図示による () ・ ・審査 (評定又は大臣認定) された内容による 試験杭 (4. 2. 2) (4. 5. 4) (4. 5. 5) 試験杭の位置 ・図示による () ・ 孔壁測定 (4. 5. 4) (4. 5. 5) 測定箇所 ・試験杭 () 箇所及び本杭 () 箇所 ・ 杭の精度 (4. 5. 4) (4. 5. 5) 水平方向の位置ずれ ・ 材料 (4. 6. 2) ・再生クラッシャーラン [G] ・切込砂利及び切込碎石 砂利厚さ (4. 6. 3) ※60mm ・50 適用箇所 ・基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・図示による () ・ 捨コンクリートの厚さ (4. 6. 4) ※50mm ・ 施工範囲 (4. 6. 4) (6. 14. 1) ・基礎梁下、土に接するスラブ下 ・図示による () ・ 設計基準強度 (4. 6. 4) (6. 14. 1) ※18N/mm ² ・ スランプ (4. 6. 4) (6. 14. 1) ※15cm又は18cm ・ 材料 (4. 6. 2) ・ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ・ 施工範囲 (4. 6. 5) ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 ・ 7 床下防湿層	5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む) (5. 3. 5) 最小かぶり厚さ (5. 3. 5) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 表4. 1) ・ 柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無 ・無し ・有り 適用箇所 () ・ 主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する 軽量コンクリートで土に接する部分 ・無し ・有り 適用箇所 () ・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm ・ 耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等) ・無し ・有り 適用箇所 () ・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm ・ 鉄筋相互のあき (機械式継手及び溶接継手を除く) (5. 3. 5) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4. 1) ・ ・ 使用箇所 (5. 5. 2) ・図示による () ・ HI2建告第1463号に適合する性能 ・ 機械式継手の種類及び工法 () (5. 5. 2) 鉄筋相互のあき (5. 3. 5) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4. 1) ・ ・ 品質の確認方法 (5. 5. 2) ・図示による () ・ 不良となった継手の修正方法等 (5. 5. 2) ・図示による () ・ 使用箇所 (5. 5. 3) ・図示による () ・ HI2建告第1463号に適合する性能 ・ 鉄筋相互のあき (5. 3. 5) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4. 1) ・ ・ 継手の工法 (5. 5. 3) ・図示による () ・ 品質の確認方法 (5. 5. 3) ・図示による () ・ 不良となった継手の修正方法等 (5. 5. 3) ・図示による () ・ 各部配筋 (5. 3. 7) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図)) ・ ・ 9 圧接完了後の試験 (5. 4. 9) 抜取試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験 6 コンクリート工事 1 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度 (6. 2. 1～4) ・普通コンクリート (6. 2. 1～4) 設計基準強度 (N/mm ²) スランプ 適用箇所 ・24 ・ ・ ・ ・ ・ ・軽量コンクリート (6. 2. 1～3) (6. 10. 1, 2) 設計基準強度 (N/mm ²) スランプ 適用箇所 ・ ・ ・ ・ ・ ・ 2 コンクリートの種別 (6. 2. 1) 類別 ※Ⅰ類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・Ⅱ類 (JIS A 5308に適合したコンクリート) 3 セメント (6. 3. 1) 種類 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 使用部位 () ・ ・高炉セメントB種 [G] 使用部位 () ・ ・フライアッシュセメントB種 [G] 使用部位 () ・ ・ 4 骨材 (6. 3. 1) アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B 5 混和材料 (6. 3. 1) ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6. 3. 1 (d) (i) による ・ ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書6. 3. 1 (d) (ii) による ・ 6 気乾単位容積質量 (6. 2. 3) ・普通コンクリート ・2.3t/m ³ 程度 ・ ・軽量コンクリート (6. 10. 1) ・ 7 軽量コンクリート (6. 10. 1) 種類 ・1種 ・2種 適用箇所 ・図示による () ・ 8 寒中コンクリート (6. 11. 1) 適用期間 (6. 11. 1) ・図示による () ・ ・積算温度を基に定める場合 (6. 11. 2) ・図示による () ・ 9 暑中コンクリート (6. 12. 2) 構造体強度補正値 (S) (6. 12. 2) ※6N/mm ² ・ 10 マスコンクリート (6. 2. 1) (6. 13. 1) 適用箇所 ・図示による () ・ セメントの種類 (6. 13. 2) ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・普通ポルトランドセメント ・ 混和材料 (6. 13. 2) ・混和剤 混和剤の種類 ※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤 ・ スランプ (6. 13. 2) ※15cm ・ 11 無筋コンクリート (6. 14. 1) 設計基準強度 (6. 14. 1) ※18 (N/mm ²) スランプ (6. 14. 1) ※15cm 又は 18cm ・ セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 [G] 適用箇所 (6. 2. 1) (6. 14. 1) ※標準仕様書6. 14. 1 (e) による箇所 ・図示による () ・ 12 流動化コンクリート (6. 2. 1) (6. 15. 1) 適用箇所 (6. 2. 1) (6. 15. 1) ・図示による () ・ 13 ひび割れ誘発目地打継目地 (6. 6. 3) (6. 8. 2) (9. 7. 3) 目地寸法 (6. 6. 3) (6. 8. 2) (9. 7. 3) ・標準仕様書9. 7. 3による ・ 間隔、位置、形状 (6. 8. 2) ・図示による () ・ 14 コンクリートの仕上がり (6. 2. 5) (6. 8. 3) 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ 種 別 適用箇所 ・A種 ・B種 ・C種 15 打増し厚さ (打放し仕上げ部) (6. 8. 2) 打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) (6. 8. 2) ・ 打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) ・ 16 型枠 (6. 8. 3) せき板の材料及び厚さ (6. 8. 3) ・合板 (※12mm ・) [G] ・ ・断熱材の兼用した型枠材の使用 (6. 8. 3) ・ ・MOR工法用シート (6. 8. 3) 打増し厚さ ・20mm ・ 打増し範囲 ・図示による () ・ スリーブの材種 (6. 8. 3) ※標準仕様書6. 8. 3 (i) (2) (i) から (iv) による ・ 4 場所打ちコンクリート杭地業	種類の記号 (4. 4. 2) ・SKK400 ・SKK490 ・ 寸法、継手等 (4. 2. 2) (4. 4. 2)	試験杭 上杭 中杭 下杭 本 杭 上杭 中杭 下杭	杭先端部形状 (4. 4. 2) ・開放形 ・半開放形 ・閉そく形 ・ 先端部の補強 (4. 4. 2) ・標準仕様書 図4. 4. 1. 表4. 4. 2による ・ 先端部の補強 (補強バンド等) 及びその他付属品の材質 ・ 施工方法 (4. 4. 1) ・打込み工法 (・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ・) (4. 2. 2) (4. 4. 3) プレボーリングの併用 ・行わない ・行う 掘削深さ及び径 ・図示による () ・ 杭の精度 ・水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 試験杭 試験杭の位置 ・図示による () ・ 打込杭推定支持力の算定 ・図示による () ・ ・特定埋込杭工法 (4. 4. 4) ・平13国交告第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法 ・平13国交告第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α、β、γが下記の値を採用できる工法 α= ()、β= ()、γ= () 工法 ・中掘り拡大根固め工法 ・ 杭の精度 (4. 4. 3) ・水平方向の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・ 試験杭 試験杭の位置 ・図示による () ・ 杭の現場継手 (4. 4. 5) ・溶接継手 形状 ・JIS A 5525による ・ 溶接材料 (4. 4. 2) ・標準 7. 2. 5 (a) (b) による ・図示による () ・ ・ ・無溶接継手 (継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ※審査 (評定又は大臣認定) を受けた工法 検査 ※審査 (評定又は大臣認定) により定められた項目 施工 ※審査 (評定又は大臣認定) された施工管理基準による 杭頭の処理 (4. 3. 7) (4. 4. 6) ・処理しない ・処理する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) ・図示による () ・ 杭頭の中詰め材料 (4. 3. 7) (4. 4. 6) ・ 掘削工法 (4. 5. 1) (4. 5. 4) ・アースドリル工法 (安定液 ※使用する ・使用しない) ・リバース工法 ・オールケーシング工法 (孔内の水張り ・行う ・行わない) 併用する工法 (4. 5. 1) (4. 5. 5) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 ・拡底杭工法 (安定液 ・使用する ・使用しない) ・ 寸法等 (4. 2. 2)	試験杭 本 杭	鉄筋の種類 (4. 5. 3) 種類の記号 呼び径 (mm) 備 考 ・SD295A ・SD345 ・ ・ 帯筋 (4. 5. 3) ・図示による () ・ ・	5 鉄筋工事 1 鉄筋 (5. 2. 1) 鉄筋の種類 (5. 2. 1) 種類の記号 呼び径 (mm) 備 考 ・SD295A ・SD345 ・ ・ ・ 2 溶接金網 (5. 2. 2) 形状等 (5. 2. 2) 種 類 種類の記号 網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm) 使用部位 ・溶接金網 ・鉄筋格子 3 鉄筋の継手 (5. 3. 4) (5. 5. 2) (5. 5. 3) 継手方法等 (5. 3. 4) (5. 5. 2) (5. 5. 3) 部位 継手方法 呼び径 (mm) 柱、梁の主筋 ・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 耐力壁の鉄筋 ・重ね継手 ・ その他の鉄筋 ・重ね継手 ・ () 耐力壁の重ね継手の長さ (5. 3. 4) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3. 1 (a) (2)) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3. 1 (a) (3)) 継手位置図 (5. 3. 4) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 5. 1. 6. 1. 7. 1. 7. 3. 8. 1) ・ 鉄筋の定着長さ (5. 3. 4) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3. 1 (b)) ・	4 鉄筋の定着長さ (5. 3. 4) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3. 1 (b)) ・
--------------	--------	--	--------	--	---	--	--	---	------------	--	--	---

工 事 名	R 8阿南 耐震対策 一の堤 操作室改修工事 (諸指)		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書 (2/9)		
縮 尺	-	図面番号	2-2
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

12

木工事

1

表面仕上げ

(12. 1. 4)

2

製材

(12. 2. 1) (12. 5. 1) (12. 6. 1) (12. 7. 1)

3

造作用集成材

(12. 2. 1)

4

造作用単板積層材

(12. 2. 1)

5

床張り用合板等

6

接着剤

7

防蟻・防蟻処理

⑬

屋根及びとい工事

②

折板葺

合板のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外

・普通合板

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5		※1類・2類	広葉樹※2等以上・1等針葉樹※C-D以上	・適用する ・適用しない	・
			・1類・2類	・	・適用する ・適用しない	・

・構造用合板

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級以上・1級		※1類・特類	※C-D以上	※12		・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・
	・2級・1級		・1類・特類	・	・		・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・

・パーティクルボード

施工箇所	表表面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ	※P又はM		※15
		・	・		・

・構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ(mm)
	・1級・2級・3級・4級	
	・1級・2級・3級・4級	

接着剤に含まれる可塑剤は、難燃発性のものとする。
ホルムアルデヒド放散量
※規制対象外

・防蟻・防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材

適用部位：()

・薬剤の加圧注入による防蟻・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K 2 ・K 3 ・K 4
	・K 2 ・K 3 ・K 4

・薬剤の塗布等による防蟻・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※標準仕様書12.3.1(3) (H)①～④による
	・

・ボード原料接着材への薬剤混入による防蟻・防蟻処理
適用部位：()

1

長尺金属板葺

(13. 2. 2. 3)

②

折板葺

(13. 2. 2) (13. 3. 2. 3) (表13. 2. 1)

材料

板及びコイルの種類()

塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号()

断熱材

有り(種別： 断熱フォーム 厚さ(mm)：1.0 防火性能： 時間)

無し

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)

・適用しない

3

粘土瓦葺

(13. 4. 2. 3)

4

とい

(13. 5. 2. 3) (表13. 5. 5)

④

金属工事

(14. 2. 1) (表14. 2. 1)

③

鉄鋼の垂鉛めっき

(14. 2. 2) (表14. 2. 2)

4

軽量鉄骨天井下地

(14. 4. 2～4) (表14. 4. 1)

5

軽量鉄骨壁下地

(14. 5. 3) (表14. 5. 1)

6

金属成形板張り

(14. 6. 2. 3) (表14. 2. 1)

7

7Aミニム製笠木

(14. 7. 2. 3) (表14. 2. 1) (表14. 7. 1)

8

手すり及びタラップ

(14. 8. 2. 3)

⑮

左官工事

(15. 3. 2. 5)

表面仕上げの種別

適用箇所

・A種

・B種

・C種

「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
		※2級	・		※A種・B種	・
		※2級	・		※A種・B種	・

「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
					※A種・B種	・
					※A種・B種	・

「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率(%)	間伐材等の適用
					※10以下	・
					※10以下	・

「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			()	・適用する 造作材の場合(※A種・B種)	・適用する ・適用しない	※A種	・
			()	・適用する 造作材の場合(※A種・B種)	・適用する ・適用しない	※A種	・

・代用樹種を使用できない箇所()

ホルムアルデヒド放散量

※規制対象外

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
			※1等・2等	・
				・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：			※1等・2等	・
	化粧薄板：芯材：				・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：			・
	化粧薄板：芯材：			・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)	間伐材等の適用
				※15以下	・
				※15以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※15以下	・
	化粧薄板：芯材：				※15以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率(%)	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※15以下	・
	化粧薄板：芯材：				※15以下	・

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り(加工：・天然木化粧加工・塗装加工)	・適用する ・適用しない	・
		・無し(等級：)		
		・有り(加工：・天然木化粧加工・塗装加工)	・適用する ・適用しない	・
		・無し(等級：)		

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	含水率(%)	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り(加工：・天然木化粧加工・塗装加工)	※14以下	・適用する ・適用しない	・
		・無し()			
		・有り(加工：・天然木化粧加工・塗装加工)	※14以下	・適用しない	・
		・無し()			

取付け用下地

※標準仕様書14.4.4による

・図示

伸縮調整継手

・設ける(施工箇所・図示)

・設けない

(14.7.2.3) (表14.2.1) (表14.7.1)

種類

・250形・300形・350形・100形

表面処理

種別()種

皮膜等の種類(※標準仕様書表14.2.1による)

着色(・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)

笠木の固定金具の工法等

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法

※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)

・適用しない

(14.8.2.3)

手すり

・ステンレス製 SUS 304 (表面処理：※HL程度・No.28程度)

・鋼製 (表面処理：溶融亜鉛めっきC種)

()

タラップ

・ステンレス製 SUS 304 (表面処理：※研磨なし)

・鋼製 (表面処理：溶融亜鉛めっきC種)

()

既製目地材

・設ける

施工箇所()

形状(※図示)

(15.3.2.5)

・設けない

床目地

・設ける(工法：※押し目地)

・設けない

外壁タイル張り下地の下地モルタルの接着力試験

・行う

・行わない

・防水剤

(6.2.5) (15.4.2)

下表以外は標準仕様書表6.2.5及び標準仕様書15.3.2による

施工箇所	平坦さ(mm)	備考
・フリーアクセスフロア(支持調整式)範囲	1mにつき10以下	
・フリーアクセスフロア(置敷式)範囲	3mにつき7以下	
・		

・せっこう系

・セメント系

(15.5.2) (表15.5.1)

3

セルフレベリング材塗り

(15.5.2) (表15.5.1)

4

仕上塗材仕上げ

(15.6.2) (表15.6.1)

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外

・仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上形状及び工法等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Si	・	・ゆず肌状(・吹付け・ローラー塗り)
	・外装薄塗材E	・	・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材E	・	・平坦状
	・防水形外装薄塗材E	・	・凹凸状(・吹付け・こて塗り)
	・外装薄塗材S	・	・着色骨材砂壁状(・吹付け・こて塗り)
	・内装薄塗材C	・	・砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材L	・	・京壁状じゅらく
	・内装薄塗材Si	・	
	・内装薄塗材E	・	・吸放湿性
	・内装薄塗材W	・	・耐湿性
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し
	・外装厚塗材Si	・	・凹凸状
	・外装厚塗材E	・	・ひき起こし
	・内装厚塗材C	・	・吸放湿性
	・内装厚塗材L	・	・上塗材
	・内装厚塗材G	・	・適用する
	・内装厚塗材S	・	・適用しない
	・内装厚塗材E	・	・適用する
	・内装厚塗材W	・	・適用しない
・厚付け仕上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状
	・複層塗材CE	・	・凸凹処理
○複層仕上塗材	・複層塗材Si	・	○凹凸状
	・複層塗材E	・	・上塗材
	○複層塗材RE	・	・耐候性
	・防水形複層塗材CE	・	・溶媒
	・防水形複層塗材E	・	※水系
	・防水形複層塗材RE	・	・溶剤系
	・防水形複層塗材RS	・	・樹脂
	・防水形複層塗材RS	・	※アクリル系
	・こて塗用軽量塗材	・	・外観
		・	・つやあり
		・	・つやなし
		・	・フラット

・軽量骨材仕上塗材

・吹付け用軽量塗材

・こて塗用軽量塗材

(15.6.4)

内壁目地部の形状

※V形目地付き

(15.7.2)

6

マスチック塗材塗り

(15.12.2)

7

ロックウール吹付け

(15.12.2)

ロックウールのホルムアルデヒド放散量

※規制対象外

・接着剤のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外

吹付け厚さ(mm)

・図示

・25

工 事 名	R8阿南 新設対策 一の堀 操作室改修工事 (諸指)
路線名等	一の堀地区
工事箇所	阿南市富岡町
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(5/9)
縮 尺	- 図面番号
会 社 名	
事業者名	徳島県阿南農林事務所

1

フリーアクセスフロア

</

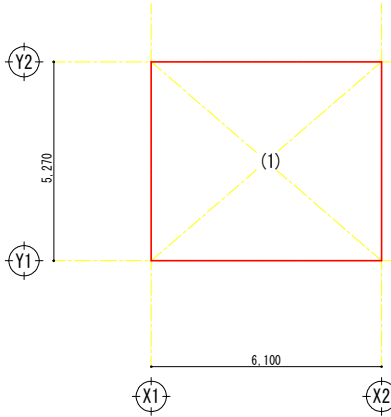
工 事 名	R 8 附 属 耐震対策 一の専 用作業改修工事 (諸指)		
路線名等	一の 堀 地 区		
工事箇所	阿 南 市 富 岡 町		
図 面 名	ゲート操作室建築工事特記仕様書 (8/9)		
縮 尺	-	図面番号	2-8
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南南農林事務所		

ゲート操作室仕上表・面積表・建具表

外部仕上表			
屋根・・・	折板 ステンレス t=0.8 H=150 裏面ペフ張り		
外壁・・・	ALC t=100 複層仕上塗材 RE 換気口：アルミ製 100φ		
軒裏・・・	折板 現し		
開口部・・・	アルミサッシ：陽極酸化塗装複合皮膜 アルミ製扉 スチール製シャッター：焼付塗装		

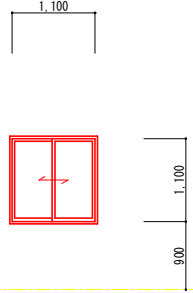
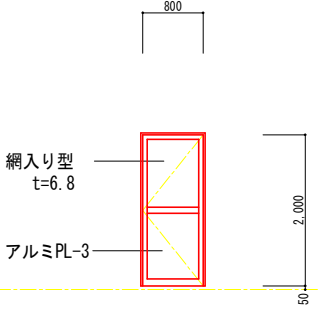
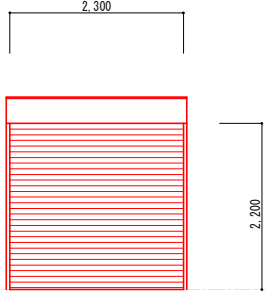
内部仕上表											
階	室名・・	床	床下地	巾木・・	壁	壁下地	天井・・	天井下地	天井高	廻り縁	備考・・
	操作室	既存床：コンクリート(既存のまま) 拡張床：C-PL(別途工事)	RC 及び C-PL	――	ALC t=100 フィーラー塗布	――	折板 裏面ベフ現し	――	直天	――	柱・梁は溶融亜鉛メッキ素地とする

求積図 S=1:100



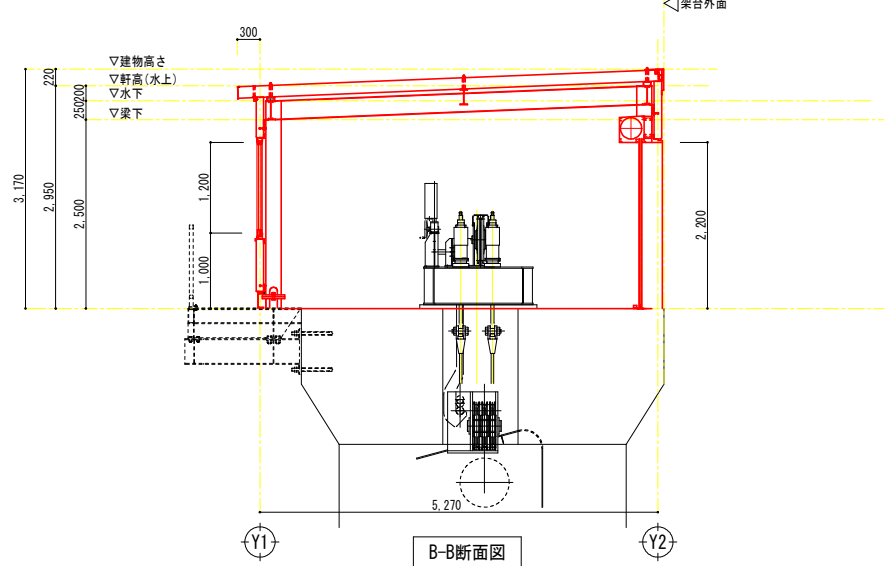
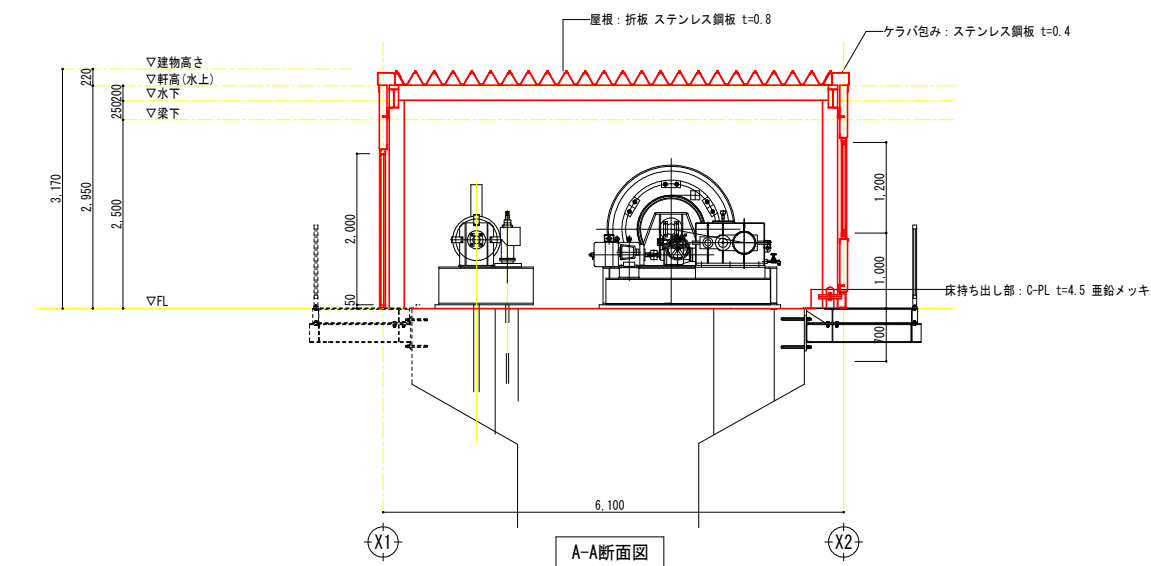
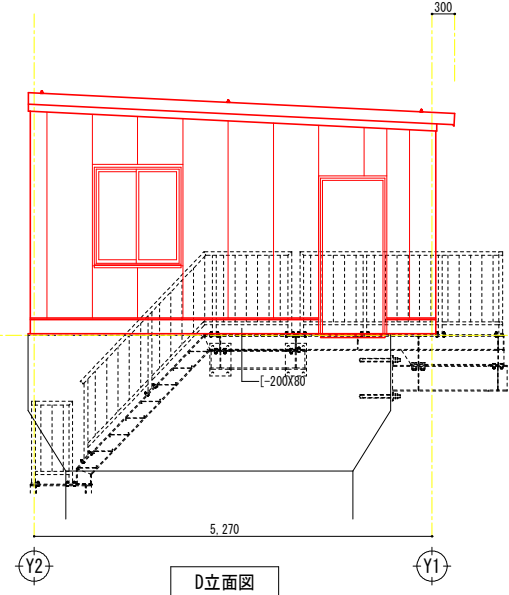
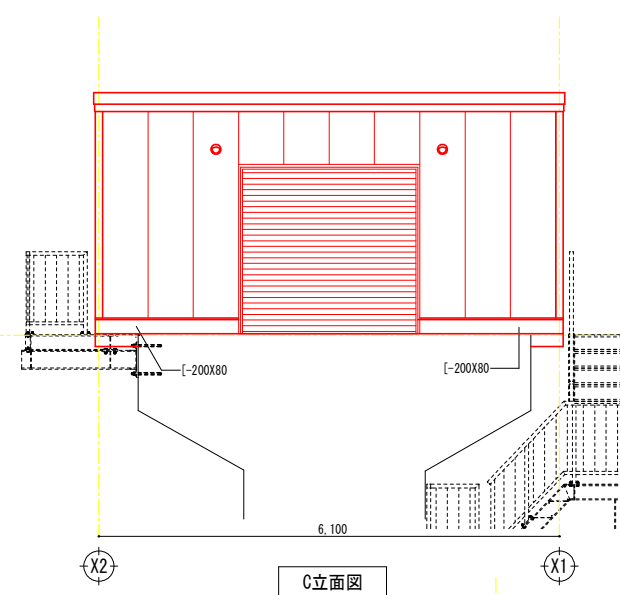
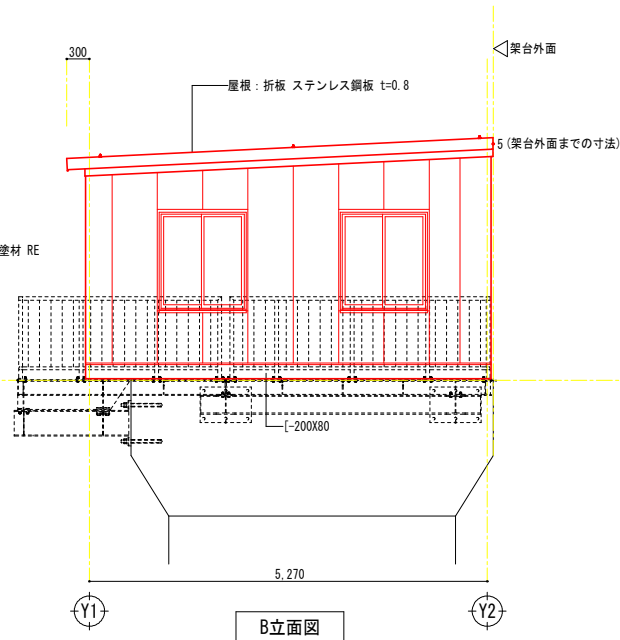
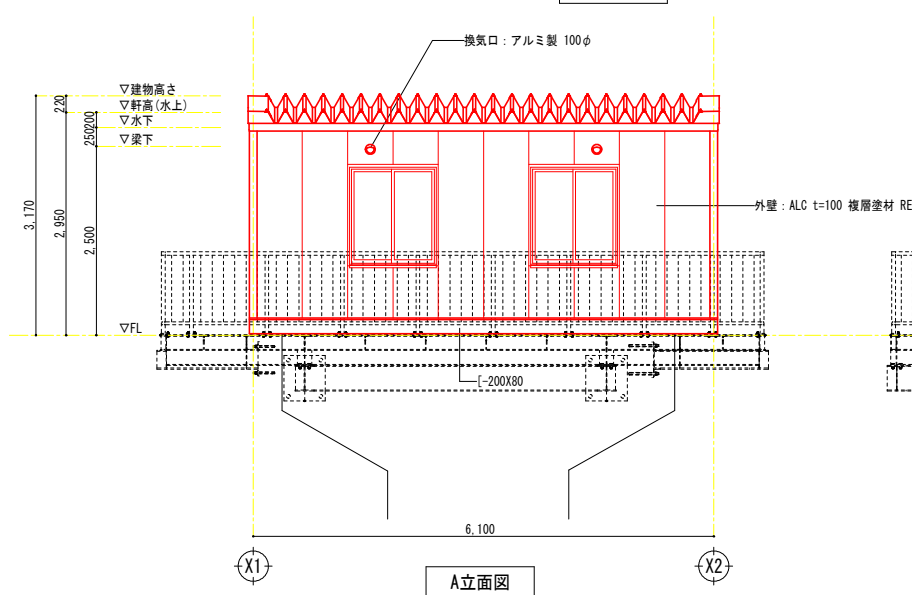
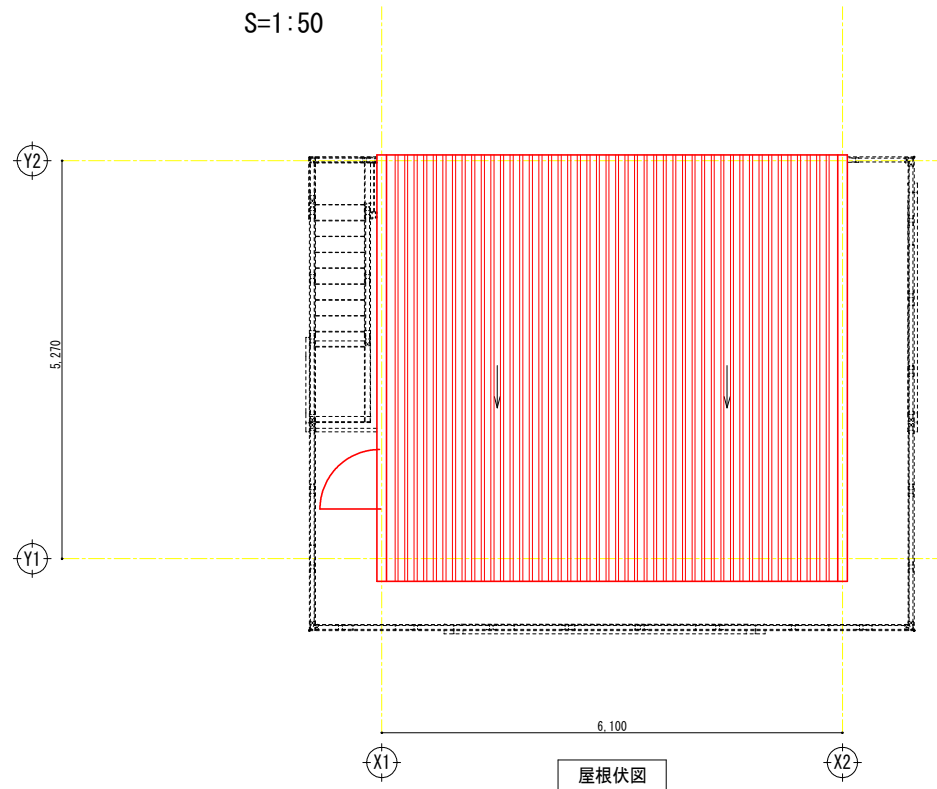
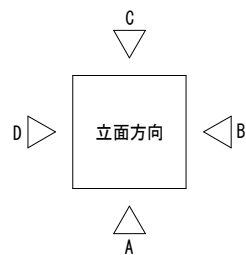
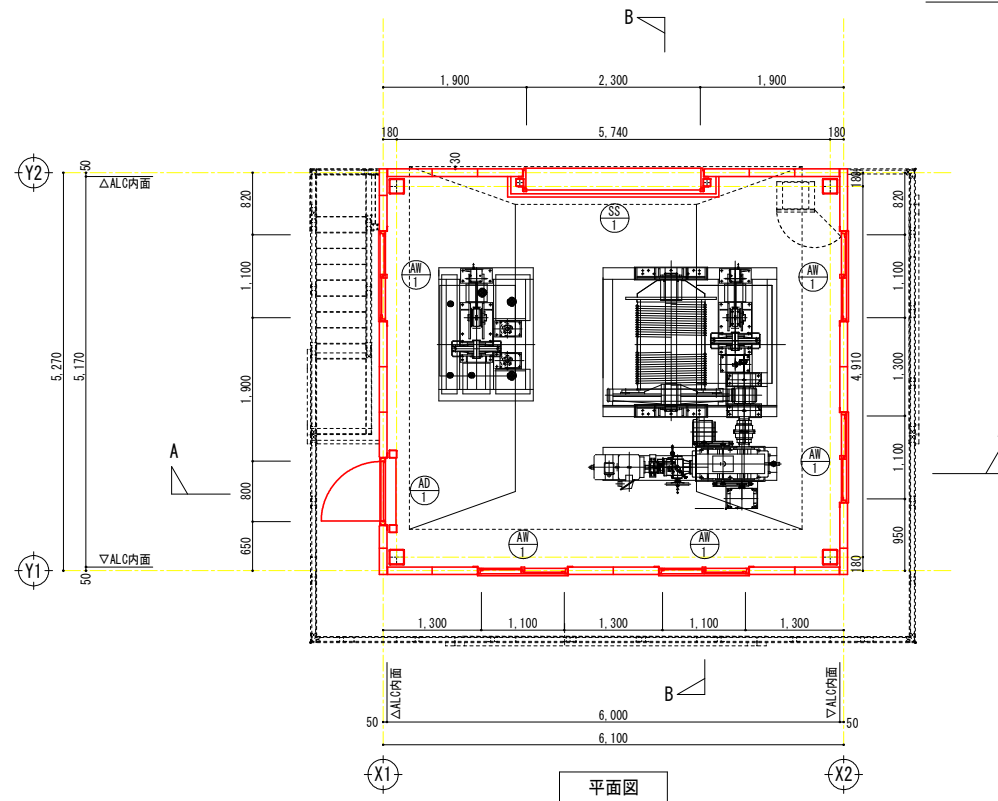
建築面積	(1) 6,100 X 5,270 = 32,1470	32.15m2
床面積	(1) 6,100 X 5,270 = 32,1470	32.15m2

建具表 S=1:50

符号	名称	個数	 アルミ製引き違い窓	5カ所	 アルミ製片開き扉	1カ所	 スチール製軽量シャッター(手動)	1カ所
姿図								
場所			操作室		操作室		操作室	
仕上 (枠共)			アルミ カラー(標準色)		アルミ カラー(標準色)		焼付塗装	
建具	見込							
	ガラス	網入り型 t=6.8			網入り型 t=6.8 アルミPL-3			
	ガラリ							
建具枠見込 査摺			70		70			
建具金物			クレセント 付属金物一式 網戸		SUS丁番 レバーハンドル 本締錠 DC		シャッターボックス(スチール焼付塗装)	
					下枠: SUS		ガイドレール・まぐさ: SUS ボトム: アルミ	
備考							錠付	

工 事 名	R 8 阿 南 前 園 対 策 一 の 電 操 作 室 改 修 工 事 (建 物)		
路線名等	一 の 堰 地 区		
工事箇所	阿 南 市 富 岡 町		
図 面 名	ゲート操作室仕上表・面積表・建具表		
縮 尺	図 示	図面番号	3
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

ゲート操作室平面図・立面図・断面図



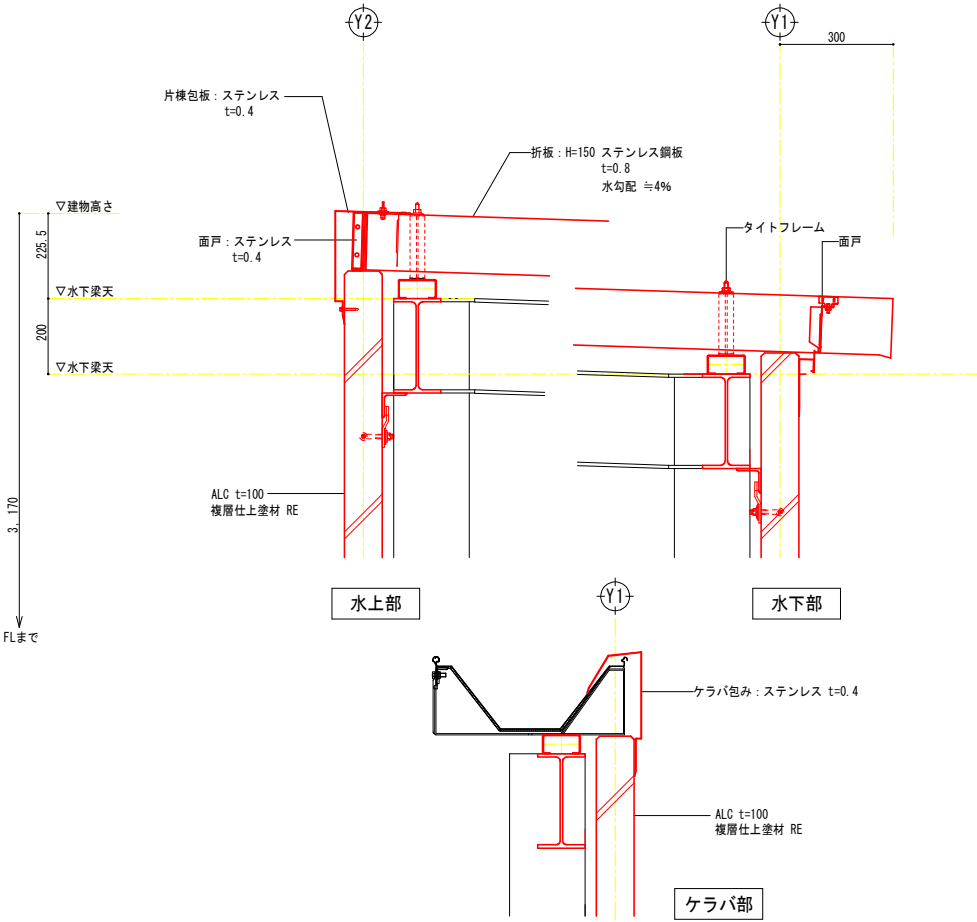
P3

工事名	R8阿南 前面対策 一の堀 操作室改修工事 (補修)		
路線名等	一の堀地区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図面名	ゲート操作室平面図・立面図・断面図		
縮尺	S=1:50	図面番号	4
会社名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

ゲート操作室詳細図

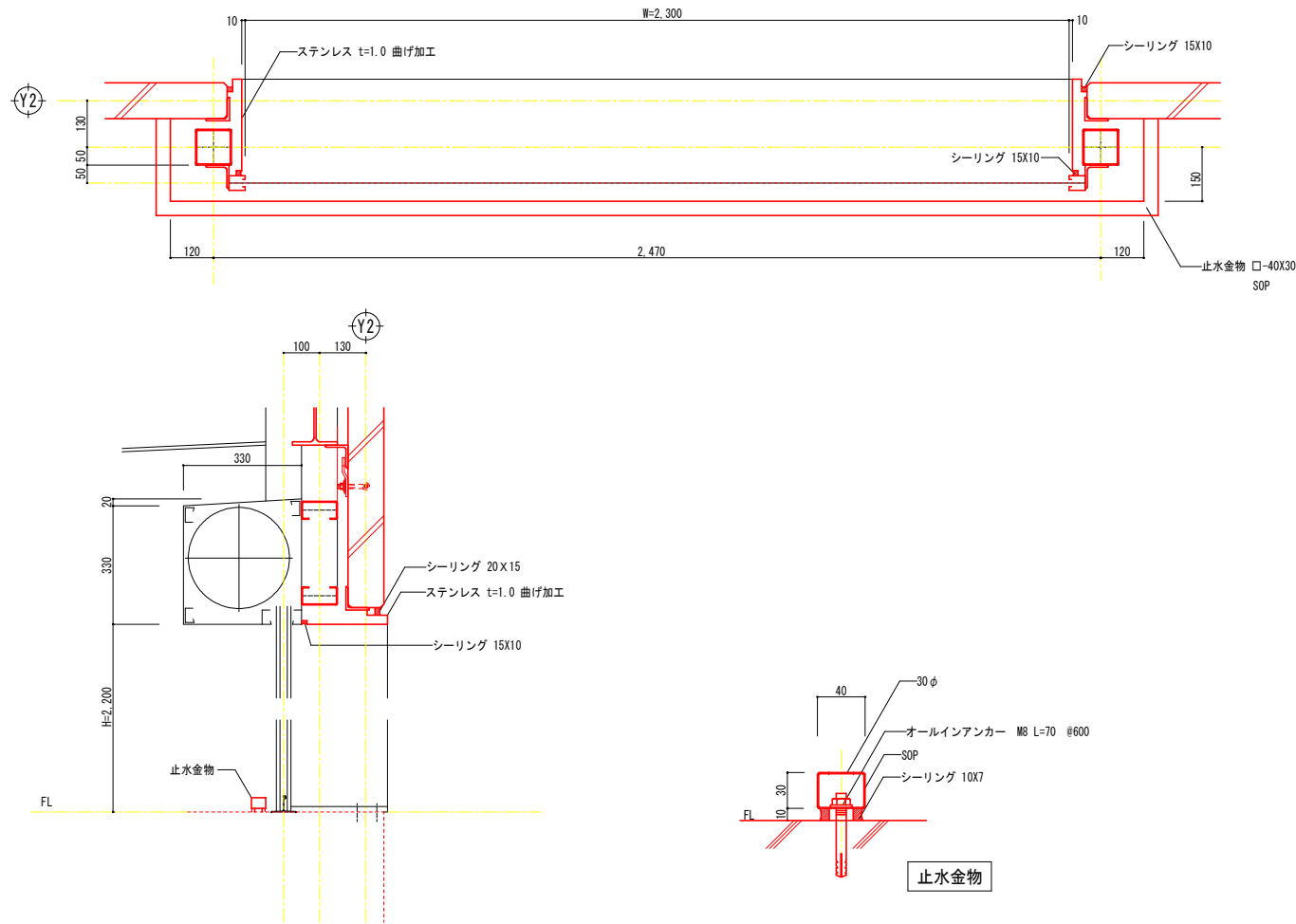
屋根詳細

S=1:10



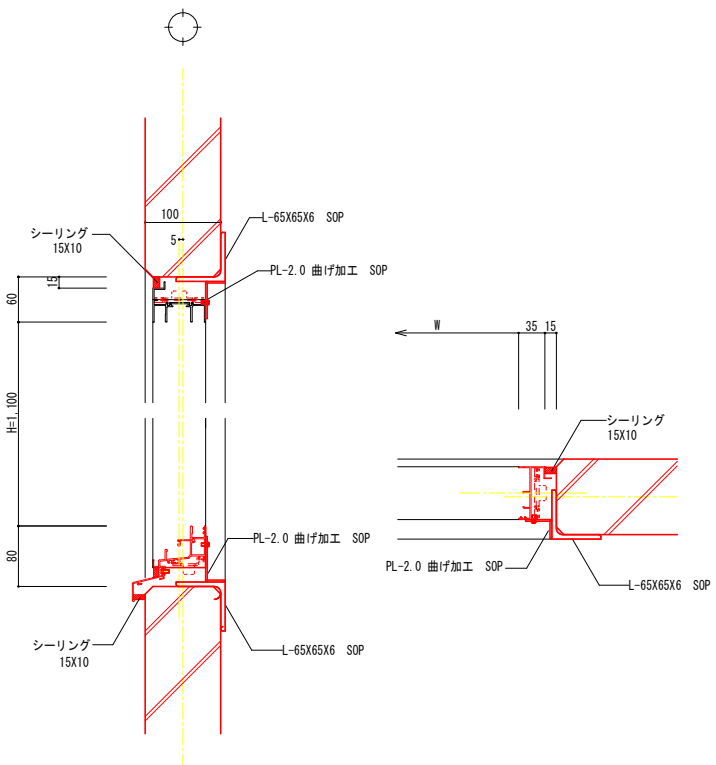
シャッター詳細

S=1:10



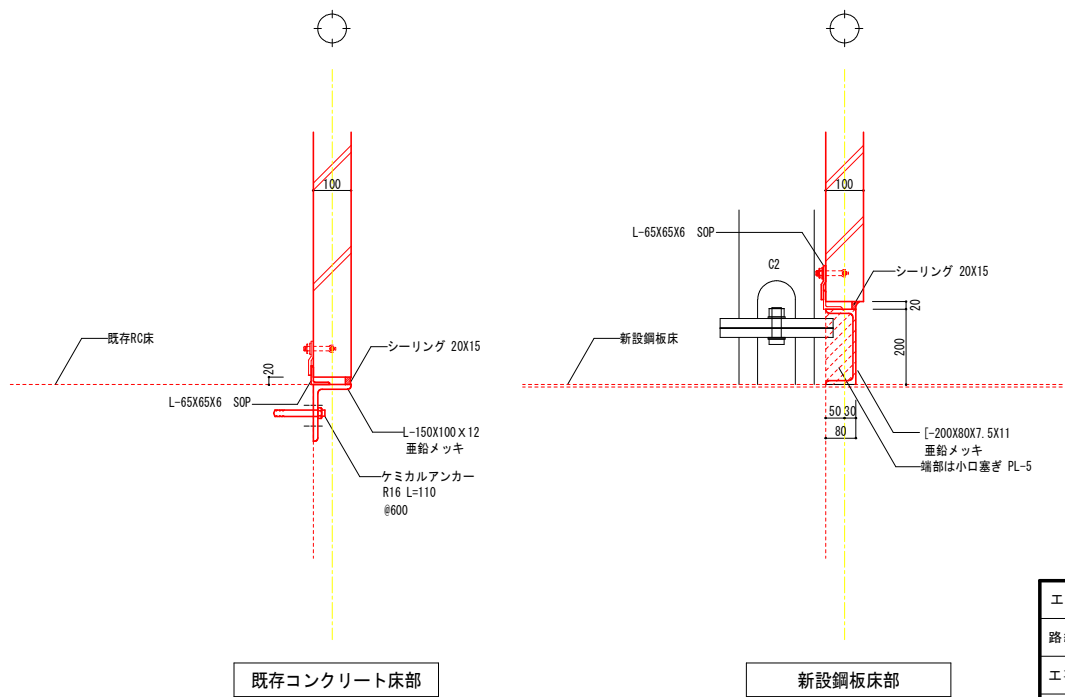
AW-1、AW-2詳細

S=1:5



ALC足元取付詳細

S=1:10



P 3

工事名	R8阿南 前園対策 一の堤 操作室改修工事 (補修)		
路線名等	一の堤地区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図面名	ゲート操作室詳細図		
縮尺	図示	図面番号	5
会社名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

ゲート操作室構造設計仕様書 (標準)

適用は■印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- | | | | | | |
|------|---------|---|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| (1) | 工事名称 | R8阿蘇 耐震対策 一の堰 操作室改修工事 (着指) | | | |
| 建築場所 | | 徳島県阿南市富岡町 | | | |
| (2) | 工事種別 | ☒ 新築 | ☐ 増築 | ☐ 増改築 | ☐ 改築 |
| (3) | 構造種別 | ☐ 鉄筋コンクリート造 (RC) ☐ 補強コンクリート・ブロック造 (GB) ☒ 鉄骨造 (S)
☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) ☐ 壁式プレハブ鉄筋コンクリート造 (WPRC)
☐ プレハブ鉄筋コンクリート造 (PRC) ☐ 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC) | | | |
| (4) | 階数 | 地下 0 階 地上 1 階 塔屋 0 階 | | | |
| (5) | 主要用途 | 機械室 | | | |
| (6) | 屋上付属物 | ☐ 高架水槽 kN ☐ 室外機 kN ☐ 避雷針 ☐ アンテナ | | | |
| (7) | 特別な荷重 | ☒ 人 6人乗り (D-7式 油圧式) ☐ リフト kN ☐ ホイスト kN
☐ 倉庫積載床用 N/m ² ☐ 受水槽 kN | | | |
| (8) | 付帯工事 | ☐ 門場 ☐ 擁壁 ☐ ☐ ☐ | | | |
| (9) | 増築計画 | ☐ 有 () ☒ 無 () ☐ 有 () ☒ 無 () | | | |
| (10) | 構造計算ルート | X方向ルート - (1) Y方向ルート - (1) | | | |

2. 使用構造材料

- | 適用箇所 | 種類 | 設計基準強度
$f_c = \text{N/mm}^2$ | 品質基準強度
$f_{ck} = \text{N/mm}^2$ | Δf
cm | 備考 |
|----------|----------|---------------------------------|------------------------------------|------------------|----|
| 捨てコンクリート | ■普通 | | | | |
| 土間コンクリート | ■普通 | | | | |
| 基礎、基礎梁 | ■普通又は高炉砂 | | | | |
| 床・その他 | ■普通、□軽量 | | | | |
| | □普通、□軽量 | | | | |
| | | | | | |
| 押えコンクリート | ■普通、□軽量 | | | | |
| 混合剤 | | A E減水剤（必要に応じて） | | | |
- 単位重量 180kg/m³ 以下、単位セメント量 270kg/m³以上とする。

- (2) コンクリートブロック (CB)
- | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-------|------|------|------|
| □A種 | □B種 | □C種 | 厚□100 | □120 | □150 | □190 |
|-----|-----|-----|-------|------|------|------|

- | (3) 鉄 筋 | 種 類 | 径 | 使用箇所 | 継手工法 |
|-----------|----------|---|------|---------------------|
| 異形鉄筋 | ■ SD295A | | | ■ 重ね継手
D10～D16 |
| | ■ SD345 | | | |
| | □ SD390 | | | ■ ガス圧接継手
D19～D32 |
| | □ | | | |
| 高強度せん断補強筋 | □ | | | □ 特殊継手 |
| 丸 鋼 | □ SR235 | | | () |
| 溶接金網 | ■ | | | |

- | 種 類 | | 使用箇所 | 現場溶接 | 備考 |
|-----------------------|----------------------|----------|-------|----|
| ■SS400 | □SM400 □SN400A. B. C | 大梁・小梁・鋼板 | □有 ■無 | |
| ■SS400 | □SM400 □SN400A. B. C | 座屈止め | □有 ■無 | |
| ■STKR400 | □BCP325 □ | 柱 | □有 □無 | |
| □SM490A □SN490B. C. □ | | | □有 □無 | |
| □SN490C | | ダイヤフラム | □有 ■無 | |

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

- (5) ボルト
☐普通:F10T ☐特殊:S10T 認定品(□M12 ■M16 ■M20 ■M22 ■M24)
☒メッキ:F8T 高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☒否

- アンカーボルト
 □SS400 M12, M16 L = S-14参照 ナット(□シングル □ダブル)
 ■ABM400 (SNR400B) M24 L = 750mm (埋込み長さ) ナット(□シングル ■ダブル)
 □頭付スタッドボルト

- $\phi =$ L = mm 使用箇所 (☐ 柱 ☐ 大梁 ☐ 小梁)
 $\phi =$ L = mm 使用箇所 (☐ 柱 ☐ 大梁 ☐ 小梁)

- (6) 屋根、床、壁
☐ 防火サイディング 厚
☒ ステンレス鋼板 (屋根) H = mm 厚 0.8 mm

- | | | |
|---|----|---|
| ☐ デッキプレート | 型式 | 厚 |
| ☐ キーストーンプレート | 型式 | 厚 |
| ☐ 特殊デッキプレート | | |
| ☒ チェッカープレート (床) | | |

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
- 有(■敷地内 □近隣)■ボーリング調査 □平板載荷試験 □水平地盤反力係数の測定
■液状化判定 □現場透水試験 ■室内土質試験
- 無(調査予定 □有 □無)
- (2) 地盤調査計画
- ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定
□土質試験 □物理探査 □平板載荷試験 □試験堀(支持層の確認)
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭径、直接基礎の深さ
形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること)

[illegible]

●備考 GL-11.3mの礫混じり砂で液状化の可能性あり。

4. 地業工事

- (1) 直接基礎
☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎 試験堀 ☐ 有 ☐ 無
基礎深さ GL — m 支持層 — 風化泥岩 ※S-01A 参照
長期許容支持力 kN/m² 載荷試験 ☐ 有 ☒ 無
- (2) 杭基礎 支持層 — 風化泥岩

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
☐ RC ☐ PRC ☐ PHC ☐ H鋼 ☒ 鋼管	PRC (☐ I 種 ☐ II 種 ☐ III 種) PHC (☐ A 種 ☐ B 種 ☐ C 種) 鋼材 (☐ SS400 ☒ SM490)	 ☐打ち込み ☐埋込み (セメント工法) ☒圧入工法 (G-ECS工法) 	大臣認定第 TACP-0448 号 H26 年 2 月 28 日
☐ 場所打ち ☐ コンクリート杭	コンクリート N/mm^2 スラブル セメント量 kg/m^3 鉄筋主筋 S1090 HOOP S10295A	 ☐トナリシガ ☐旋回杭 ☐トナリシガ ☐トナリシガ ☐トナリシガ ☐トナリシガ ☐BH ☐深礎 ☐手掘 ☐機械掘	旋回杭 日本建築学会認定工法 年 月 日

杭仕様
試験杭

■施工計画書承認
(☒有・☐無)

■杭施工結果報告書
(☐打ち込み・☐載荷)

桩径 (mm)	长期许可支持力 (kN/m2)	短期许可支持力 (kN/m2)	本数	特記事項
φ267.4	721.00	1442.00	2	
φ216.3	498.25	996.50	12	

- (3) ~~基礎梁~~ 捨てコン t=50mm
敷砂利 t=50mm

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
- コンクリートはJIS認定工場製の製品とし、施工に関してはJASS5(2015)による。
- 耐久設計基準強度 Fd 18 ■短期 ■標準 ■長期
- セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの塩化水素測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
- 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- 構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。

また、打ち込み量が150m³を超える場合は、150m³ごとまたは、その繰数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3回の搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4通用に3本を用いる。

■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち終わり位置にできるだけ近づくて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない程度とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み現場中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は15分、25℃以上の場合は12分以内とする。

- (2) 鉄筋
- 鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASSS(2015)による。
 - 高強度セメン砕断筋は、JIS G 3137に規定される種1号適合品とする。
 - 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さ
「配筋基準共通事項」、「配筋基準」または「壁式配筋基準」による。
 - D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、
日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
 - 継手部の施工要領は 社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、
機械式継手工事)による。
 - 外観検査 ■有 □無、引張試験 ■有(5本/ロット) □無、超音波試験 □有 ■無
超音波試験の場合、最初の数ロットは引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。
(ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所にて200ヶ所程度とする。)
 - 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、■H型(タガ型) □W型(溶接型)
□S型(スパイラル型)とする。
 - コンクリート及び鉄筋の試験は、公的機関と代行
設計者・工事監督者の承認を受けた機関及び代行者とする。

- (2) 型 枠
- 材料 合板厚 12mmを標準とする。 ■施工はJASS5による。
- 型枠存置期間

種類 部位	せき板				支　　柱				
	基礎、はり側、壁、柱		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下		
セメントの種類	早強 [※] 1 種	普通 [※] 1 種	早強 [※] 1 種	普通 [※] 1 種	早強 [※] 1 種	普通 [※] 1 種	早強 [※] 1 種		
	富戸 [※] 1 種	富戸 [※] 1 種	富戸 [※] 1 種	富戸 [※] 1 種	富戸 [※] 1 種	富戸 [※] 1 種	富戸 [※] 1 種		
存置期間の 平均気温	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種		
	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種	リシメント A種		
コンクリートの 強度(圧縮)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
	10℃～15℃	3	5	6	10	12	25		
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
コンクリートの 圧縮強度	5.0(N/mm ²)		2		設計基準強度の				
					設計基準強度の50%				
					設計基準強度の				
					85%				100%

- 注) 1 片持はり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない、また、その他のはりの場合も原則として行わない。
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱項部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
- 日本建築学会 「JASS6」 「鉄骨精度検査基準」 「鉄骨工事技術指針」
□鋼材倶楽部 「建築鉄骨工事施工指針」
□
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
- 認定または登録工事 (M グレード 都登録 ランク)
■材料規格証明書または試験成績書
■製作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書
■社内検査表 □
■鋼材 ■高力ボルト □特殊ボルト ■頭付スタッド
- (3) 工事監理者が行う検査項目
(□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
- 建方検査 ■工作図 □
□現寸検査 □組立・関係検査 ■製品検査
- (4) 接合部の溶接は下記によること
- 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)
■日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」
□日本建築学会「溶接工作基準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、Ⅷ、Ⅸ」
- (5) 接合部の検査
- 溶接部の検査溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
■完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100%	20%	0%	1ロットは220ヶ所とする。
■隅肉溶接	外観（目視）検査	100%	20%	0%	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関名とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注1) 現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行う事。

注2) 現場溶接部は、超音波探傷試験を100%行う事。

■高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないまでもよい。

■高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するように注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

- (6) 防錆塗料
- 防錆塗料の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、JIS K5674、2回塗りと標準とする。
 - 現場における高力ボルト接合部及び接合部の基地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ塗料のペイントを使用し2回塗りとする。
 - 屋外鉄骨は溶融亜鉛メッキとする
- (7) 耐火被覆の材料（耐火被覆を施す場合は錆止め塗装は不要）
-

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は滞りなく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を撮影保管すること。

工 事 名	R8 阿南 新田対策 一の堰 操作室改修工事 (後掲)		
路線名等	一の堰 地 区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図 面 名	ゲート操作室構造設計仕様書		
縮 尺	-	図面番号	6
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

※全てのゲート操作室に共通

ゲート操作室鉄骨基準

高力ボルト ・ ボルトの特記事項

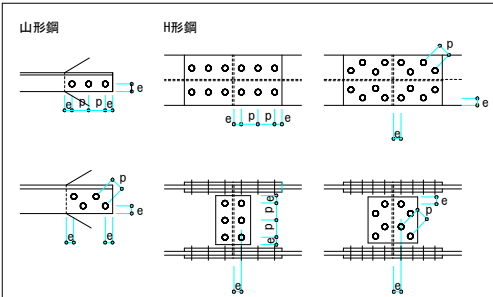
1. 形鋼のゲージ()と最大軸径() d

A, B, e ₁ , e ₂ , d	B, e ₁ , e ₂ , d	B, e ₃ , d
40 22 10 100 60 16 40 24 10	45 25 12 125 75 16 50 30 16	50 30 16 150 90 22 65 35 20
60 35 16 175 105 22 70 40 20	65 35 20 200 120 24 75 40 22	70 40 20 250 150 24 80 45 22
75 40 22 300 150 40 24 90 50 24	80 45 22 350 140 70 24 100 55 24	90 50 24 400 140 90 24
100 55 24	125 50 35 24	130 50 40 24
150 55 55 24	175 60 70 24	200 60 90 24

(注) 1) ※印のB-300は千鳥配置とする。

2) ※※印欄の e₁ 及び最大軸径の値は強度上支障がないとき、最小縁距離の規定にかかわらず用いることができる。

2. ピッチ・縁距離



※ 大梁継手はSCSS-H97に準ずる。

軸 径 d	16	20	22	24		
	標 準	60	70	80	90	
ピッチ p	最 小	40	50	55	60	
縁端距離 e	標 準	40	40	40	45	
	最 小	(1)	28	34	38	44
		(2)	22	26	28	32

(注) 1) e : (1) は、せん断縁、手動ガス切断縁の場合の縁端距離

(2) は、圧延縁、自動ガス切断縁、のこり縁、機械仕上縁の場合の縁端距離

2) ボルトピッチ、縁端距離を変更する場合は、監理者と協議すること。

3. 孔径

ボルトの種類	孔 径 D	軸径dの範囲
高力ボルト	d + 2	d < 27
	d + 3	d ≥ 27
ボルト	d + 0.5 (注)	
アンカーボルト	d + 5	

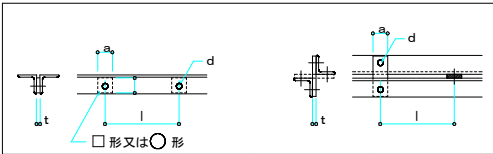
(注) 母屋、胴縁類の取付け用ボルトの場合は、d + 1. 0 とすることができる。

4. 接合の精度

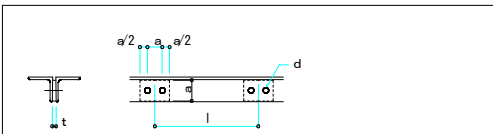
名 称	図	許容差
孔の心ずれ e		e ≤ 1 mm
孔相互の間隔 Δp		-1 mm ≤ Δp ≤ +1 mm
孔の食違い e		e ≤ 1 mm
高力ボルト接合の肌すき e		e ≤ 1 mm
孔のはしあき・へりあき Δa		Δa 1 ≥ -2 mm Δa 2 ≥ -2 mm かつ「鋼構造設計規程」「高力ボルト接合設計施工ガイドブック」の最小縁端距離を満足すること。

上記は、J A S S 6 2 0 0 7 年版の管理許容差を示す。

5. 圧縮部材のはさみ板



部材	最大間隔 ≤ l	はさみ板 a	軸径 d
2Ls - 50×50×6	450	50	※12
2Ls - 60×60×5	550	50	※12
2Ls - 65×65×6	600	60	16
2Ls - 75×75×6	700	60	16



部材	最大間隔 ≤ l	はさみ板 a	軸径 d
2Ls - 90×90×7	850	70	20
2Ls - 100×100×10	950	70	20

(注) 1) はさみ板を配置する部材は別図に表示。

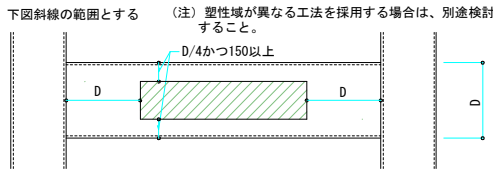
2) はさみ板厚は原則として圧縮部材の仕口、継手等の e と同じとする。

3) ※印は強度上支障がないとき、軸径16mmを用いることができる。

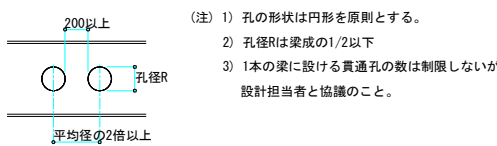
貫通孔補強

採用タイプ ここでは基本原則を示し、実際の補強詳細は施工図により設計担当者と協議の上決定する。

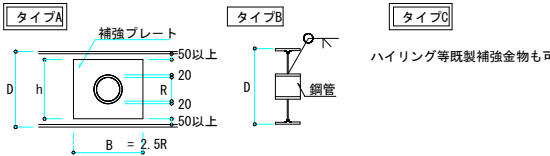
■ 貫通孔の設置範囲



■ 貫通孔の間隔



■ 貫通孔の補強



梁 成 (D)	孔 径 (R)	タイプA		タイプB	
		補強プレート (t×h×B)	材 質	補強プレート (t×h×B)	材 質
700	300 350	2×(9×500×700)			
600	300	2×(9×440×600)			
588	300	2×(9×440×600)			
500	250	2×(9×400×500)			
450	200	2×(9×360×450)			
400	200	2×(6×300×400)			
300	150	1×(9×200×300)			

補強PLの材質は母材と同材とする。

筋違(建築用ターンバックルボルト・胴)

1. 羽子板ボルト

ボルト	端部プレート	取付高力ボルト
調整ねじの長さ(最小) s	溶接の長さ(最小) l	端部プレート(最小)
d	e	はしあき へりあき e
M12	100	40 35 22 19 47 4.5 13 1-M12
M16	125	55 45 28 25 59 6 17 1-M16
M20	150	75 50 34 32.5 66 9 21.5 1-M20
M24	175	85 50 38 37.5 70 9 21.5 2-M20

(注) 1) ※ ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)

2) 溶接のビード幅は t/2 以上とする。

2. ターンバックル胴

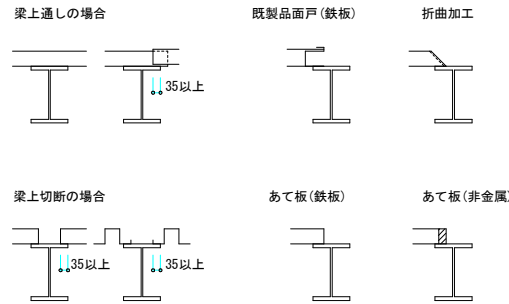
割枠式	パイプ式	ねじの呼び	寸法	割枠式
記号		胴の長さ L	ねじの長さ A	質量 kg
形状		M12	200 ≤ 17	≤ 0.300
		M16	250 ≤ 23	≤ 0.640
		M20	300 ≤ 28	≤ 1.200
		M24	350 ≤ 34	≤ 2.090

(注) 羽子板ボルト、ターンバックル胴の材質はJISによる。パイプ式胴には重量規定なし。

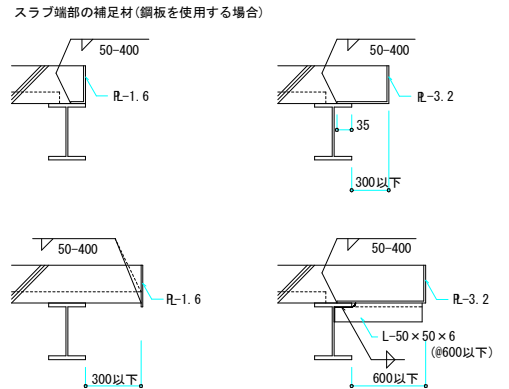
デッキプレート関係

1. 受梁へのかかり寸法及び端部処理

※S-24を優先とする。

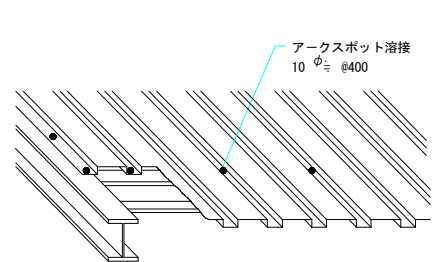


4. コンクリートスラブの補足事項

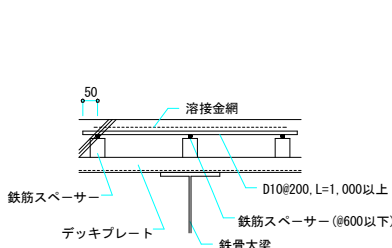


2. 梁との溶接及びコネクター

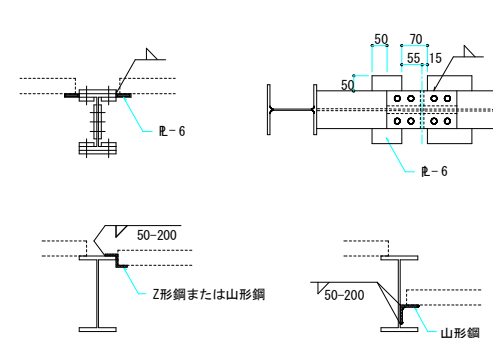
※S-24を優先とする。



5. 大梁上ひびわれ防止筋 (合成デッキスラブ及びフラットデッキスラブの場合)



3. 補足受材



鉄筋貫通のための孔径

鉄筋の公称径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔	21	24	28	31	35	38	43	46

(注) 貫通孔は工作図に基づき、工場においてドリルあけとする。

アンカーボルト標準寸法

ねじの呼称 d	寸法				備考
	S	l ₁	R	l ₀	
M12	80	56	25	450	
M16	80	71	32	550	
M20	100	90	40	700	
M24	100	112	50	800	
M30	100	140	63	950	

工 事 名	R8 阿南 前期対策 一の地 操作室改修工事 (補修)		
路線名等	一の 堰 地 区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図 面 名	ゲート操作室鉄骨基準		
縮 尺	-	図面番号	7
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

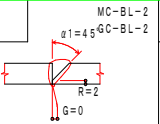
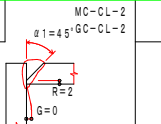
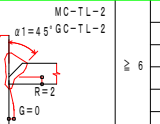
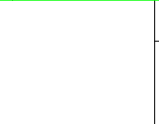
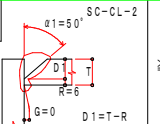
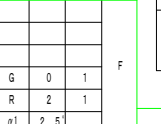
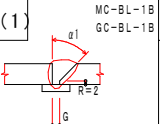
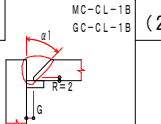
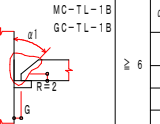
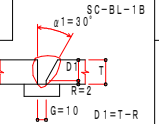
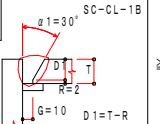
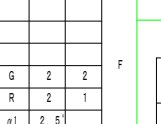
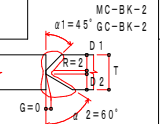
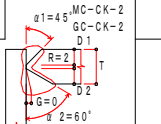
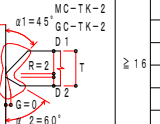
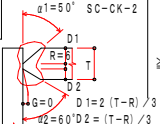
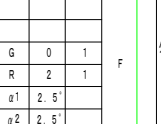
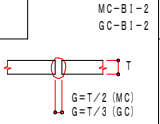
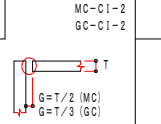
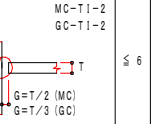
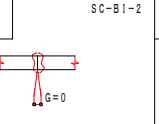
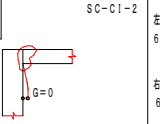
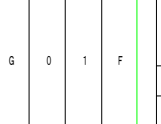
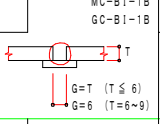
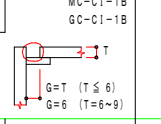
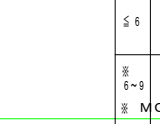
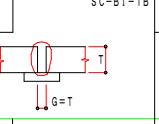
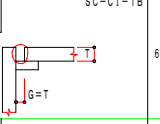
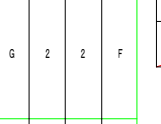
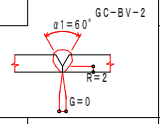
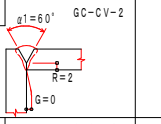
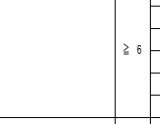
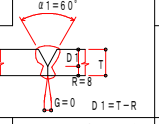
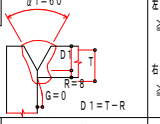
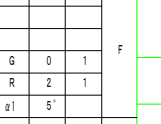
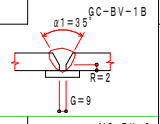
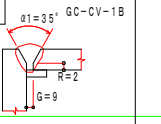
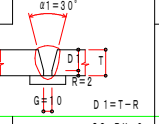
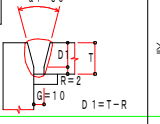
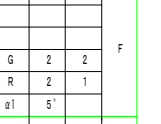
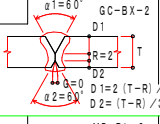
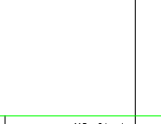
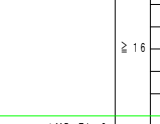
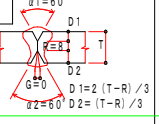
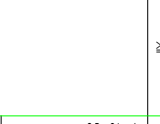
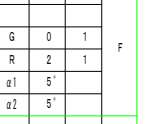
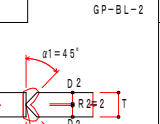
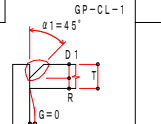
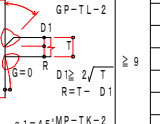
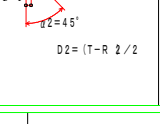
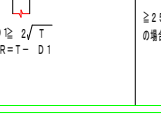
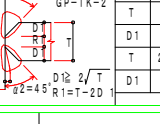
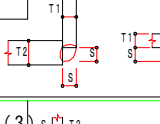
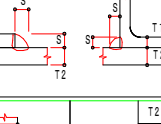
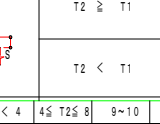
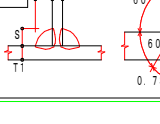
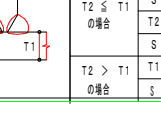
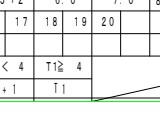
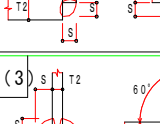
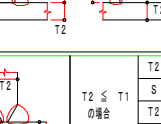
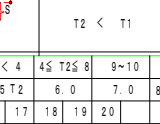
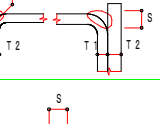
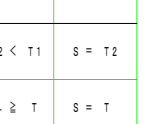
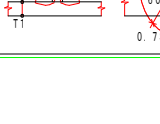
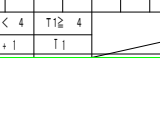
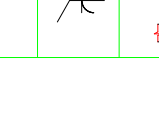
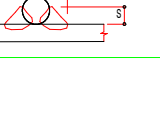
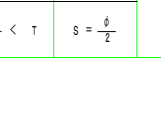
ゲート操作室溶接基準

1. 適用範囲

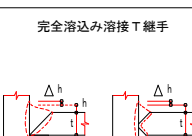
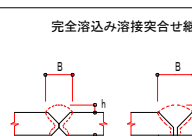
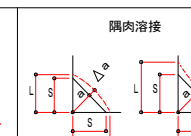
■ 本基準図は鉄骨の工場溶接・工事現場溶接を行う場合に適用する。

2. 溶接継手の方法及び形状寸法

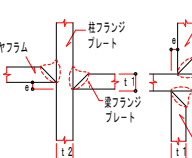
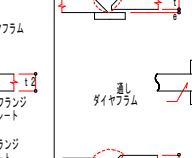
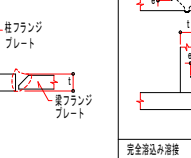
■ 部分溶込み溶接及び隅肉溶接の形状寸法は設計者が記入するものとする。
■ 適用板厚は50mm以下とする。
■ 寸法の単位は全てmmとする。

溶接方法	M アーク手溶接		G ガスシールドアーク半自動溶接		S サブマージアーク溶接	
	■ アーク手溶接の場合、初層に使用する棒径は2.6~5.0としルート間隔、板厚及び溶接姿勢により使いわけするものとする。 ■ 完全溶込み溶接の裏当て金のない開先は裏はつりを行う。				■ 完全溶込み溶接の裏当て金のない開先は裏はつりを行う。 ■ 溶接装置は最大容量1000Aの1電極とする。	
記号	呼称・形状図・寸法		呼称・形状図・寸法		呼称・形状図・寸法	
	B 突合せ継手	C かど継手	T T継手	B 突合せ継手	C かど継手	T T継手
完全溶込み溶接	 MC-BL-2 GC-BL-2	 MC-CL-2 GC-CL-2	 MC-TL-2 GC-TL-2	 SC-BL-2	 SC-CL-2	 SC-TL-2
	 MC-BL-1B GC-BL-1B	 MC-CL-1B GC-CL-1B	 MC-TL-1B GC-TL-1B	 SC-BL-1B	 SC-CL-1B	 SC-TL-1B
	 MC-BK-2 GC-BK-2	 MC-CK-2 GC-CK-2	 MC-TK-2 GC-TK-2	 SC-BK-2	 SC-CK-2	 SC-TK-2
	 MC-BI-2 GC-BI-2	 MC-CI-2 GC-CI-2	 MC-TI-2 GC-TI-2	 SC-BI-2	 SC-CI-2	 SC-TI-2
	 MC-BI-1B GC-BI-1B	 MC-CI-1B GC-CI-1B	 MC-TI-1B GC-TI-1B	 SC-BI-1B	 SC-CI-1B	 SC-TI-1B
	 MC-BV-2 GC-BV-2	 MC-CV-2 GC-CV-2	 MC-TV-2 GC-TV-2	 SC-BV-2	 SC-CV-2	 SC-TV-2
	 MC-BV-1B GC-BV-1B	 MC-CV-1B GC-CV-1B	 MC-TV-1B GC-TV-1B	 SC-BV-1B	 SC-CV-1B	 SC-TV-1B
	 MC-BX-2 GC-BX-2	 MC-CX-2 GC-CX-2	 MC-TX-2 GC-TX-2	 SC-BX-2	 SC-CX-2	 SC-TX-2
	 MP-BL-2 GP-BL-2	 MP-CL-1 GP-CL-1	 MP-TL-2 GP-TL-2	 SP-CL-1		
	 MC-BL-1 GC-BL-1	 MC-CL-1 GC-CL-1	 MC-TL-1 GC-TL-1			
	 MC-BL-1B GC-BL-1B	 MC-CL-1B GC-CL-1B	 MC-TL-1B GC-TL-1B			
	 MC-BL-1B GC-BL-1B	 MC-CL-1B GC-CL-1B	 MC-TL-1B GC-TL-1B			
隅肉溶接	 T継手	 かど継手	 T継手	 T継手	 T継手	 T継手
	 T継手	 かど継手	 T継手	 T継手	 T継手	 T継手

3. 溶接部の余盛高さ

余盛高さ			
完全溶込み溶接T継手	完全溶込み溶接突合せ継手	隅肉溶接	
			
$t \leq 40$ ($h = t/4$)	$0 \leq \Delta h \leq 7$	$B < 15$ $0 < h \leq 3$	$0 \leq \Delta h \leq 0.4S$
$t > 40$ ($h = 10$)	$0 \leq \Delta h \leq \frac{t}{4} - 3$	$15 \leq B < 25$ $0 < h \leq 4$	かつ $\Delta h \leq 4$
上記は、JASS6(2007年版)の管理許容差を示す。			

4. 溶接部の寸法許容差

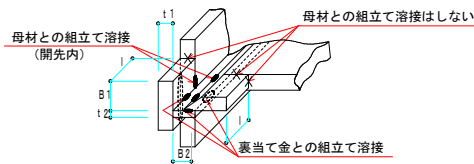
仕口のずれ (ダイヤフラムとフランジのずれ)	突合せ継手の食違い	アンダーカット
		
$t \geq t_1$ の場合 $e \leq t/5$ かつ $e \leq 4$	$t < t_1$ の場合 $e \leq t/4$ かつ $e \leq 5$	$t \leq 15$ $e \leq 1.5$ $e \leq t/10$ かつ $e \leq 3$
この場合において、通しダイヤフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジは通しダイヤフラムの厚み内部で溶接しなければならない。		
ただし、アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの10%以下であり、かつ、その断面が鋭角でない場合は、そのアンダーカットの深さeを1mm以下とする事ができる。		

■ 上記は、「鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件」(平成12年5月31日建設省告示1461号)による。
■ 上記項目の測定要領は、「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」(独立行政法人建築研究所監修2003年度版)に準拠し、許容差を超えた場合には設計者・監理者に速やかに報告し、その対応・補修について協議すること。

5. 溶接止端部の処理及び裏当て金

1) 完全溶込み溶接

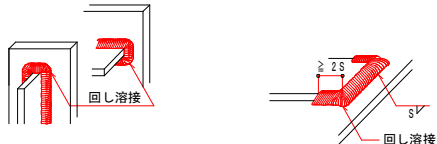
- 原則として鋼製エンドタブを使用する。代替エンドタブを使用する場合は監理者の承認を得ること。ただし、回し溶接工法などにより健全な溶接部が得られると認められる場合は省略することができる。
- エンドタブは直接母材に組立て溶接しない。
- 鋼製エンドタブ及び裏当て金の材質 (○SM490A ●母材と同材)
- 鋼製エンドタブを使用する場合の寸法形状は下記を標準とする。



溶接方法	エンドタブ			裏当て金	
	I	B1	t1	B2	t2
手	30~50				9
半自動	40~60	30~50	母材と同厚	≥ 25	9
自動	50~100				12

2) 隅肉溶接

- 角部においては原則として回し溶接を行う。



3) エンドタブの除去

- 部材ランクB[※]の完全溶込み溶接部に設けたエンドタブは除去すること。但し、設計者・工事監理者の承認を得て省略することができる。
- 部材ランクA[※]及びB[※]の完全溶込み溶接部に設けたエンドタブに関しては、耐火被覆及びコンクリート等で覆われる場所は原則として除去しない。ただし、鉄筋と干渉する場合及び仕上塗装する場合は5.0mmを残して切断し、平滑に仕上げる。この場合、L形切断となる部分は曲線形に行う。

4) スカラップ

- スカラップを設ける場合は溶接作業に支障のない寸法形状とする。
- 柱・梁接合部のスカラップ加工 (●工場溶接部 (○ノンスカラップ) ○複合円型スカラップ) (○現場溶接部 (○ノンスカラップ) ○複合円型スカラップ)

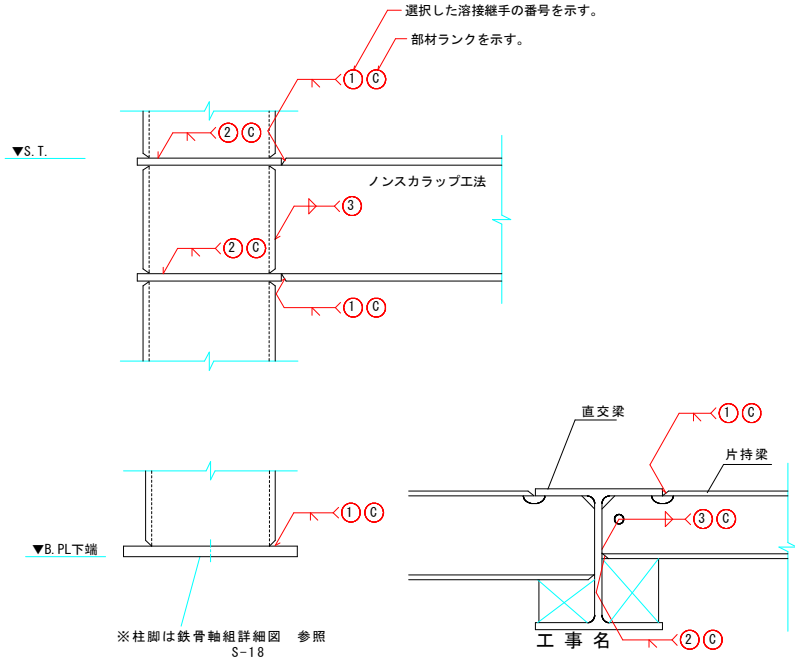
6. ガスシールドアーク溶接法による完全溶込み溶接部の条件・管理

400N/mm²級および490N/mm²級鋼材の場合

部材ランク [※]	溶接条件	溶接管理
A	規定なし	規定なし
B	入熱40kJ/cm以下、かつバス間温度350℃以下	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、標準的な溶接速度等を考慮した溶接電流・電圧の設定、(2)溶接作業の中断・再開時のバス間温度管理について明記すること。
C	YGW-11 ^{***} (下記以外の400N級鋼) 入熱40kJ/cm以下、かつバス間温度350℃以下	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、(2)入熱(溶接電流・電圧、溶接速度)、バス間温度、(3)入熱・バス間温度の検査方法、抜取率、(4)溶接作業の中断・再開時のバス間温度管理について明記すること。
	YGW-15 ^{***} (400N級STKR・BCR・BCP鋼) 入熱30kJ/cm以下、かつバス間温度250℃以下	規定の溶接条件に基づいて溶接された印として、溶接技術者が溶接部近傍にサインを行い、溶接技術者がそれを確認すること。
	YGW-18 ^{***} (490N級鋼) 入熱30kJ/cm以下、かつバス間温度250℃以下	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、標準的な溶接速度等を考慮した溶接電流・電圧の設定、(2)溶接作業の中断・再開時のバス間温度管理について明記すること。

- * 部材ランクA：原則的に、極めて稀な大地震でも塑性化の恐れのない部材。2次部材等。
- 部材ランクB：原則的に、柱・大梁等の主要耐震要素で、極めて稀な大地震でもほぼ弾性的な挙動をする部材
- 部材ランクC：原則的に、柱・大梁等の主要耐震要素で、極めて稀な大地震でも十分な塑性変形能力を期待する部材
- ** ただし、溶接金属の機械的性質を確保できる入熱またはバス間温度で、施工試験により確認されている場合は、施工要領書に明記することにより、それを規定値とすることができる。
- *** 490N/mm²を超える部材、または上記以外のソリッドワイヤーを使用する場合の溶接条件・管理方法については、別途定めることとする。

溶接要領

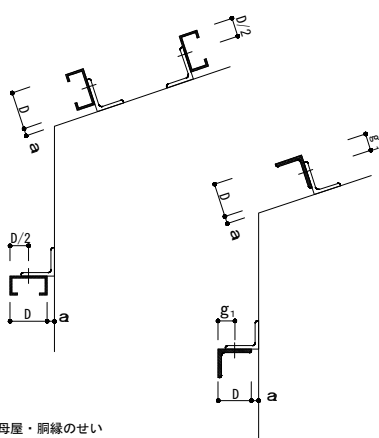


※柱脚は鉄骨軸組詳細図 参照 S-18

工事名	R8 前期 前期 一期 二期 三期 四期 五期 六期 七期 八期 九期 十期 十一期 十二期 十三期 十四期 十五期 十六期 十七期 十八期 十九期 二十期 二十一期 二十二期 二十三期 二十四期 二十五期 二十六期 二十七期 二十八期 二十九期 三十期 三十一期 三十二期 三十三期 三十四期 三十五期 三十六期 三十七期 三十八期 三十九期 四十期 四十一期 四十二期 四十三期 四十四期 四十五期 四十六期 四十七期 四十八期 四十九期 五十期 五十一期 五十二期 五十三期 五十四期 五十五期 五十六期 五十七期 五十八期 五十九期 六十期 六十一期 六十二期 六十三期 六十四期 六十五期 六十六期 六十七期 六十八期 六十九期 七十期 七十一期 七十二期 七十三期 七十四期 七十五期 七十六期 七十七期 七十八期 七十九期 八十期 八十一期 八十二期 八十三期 八十四期 八十五期 八十六期 八十七期 八十八期 八十九期 九十期 九十一期 九十二期 九十三期 九十四期 九十五期 九十六期 九十七期 九十八期 九十九期 一百期		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図面名	ゲート操作室溶接基準		
縮尺	-	図面番号	8
会社名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

ゲート操作室母屋・胴縁関係

1. 取付方向及び取付位置



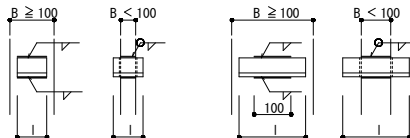
a： 胴縁の肌すき寸法 10~25

2. 取付部材(ピース)の寸法

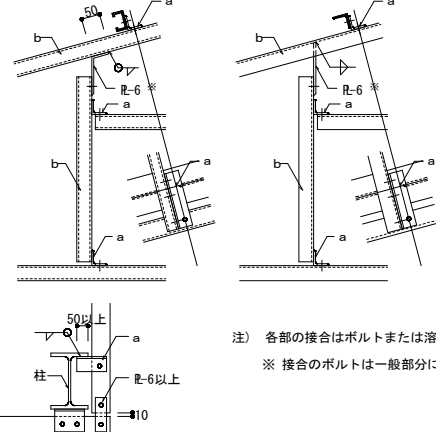
		取付部材(ピース)	
母屋・ 鋼縁のせい	65	L- 75 × 75 × 6	
	75	L- 90 × 90 × 7	
	90	L-100 × 100 × 7	
	100	L-100 × 100 × 7	
	120	L-120 × 120 × 8	
(D)			
取付 ボルト	2-M12		
	1-M16		

3. 取付部材(ピース)の接合

B: 梁、柱の幅



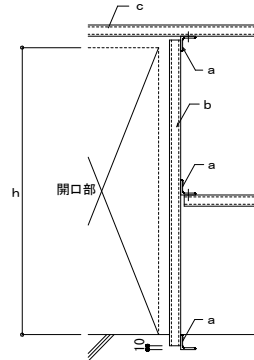
4. のぼり胴縁付近及び壁の出隅部



※ 接合のボルトは一般部分にならう

5. 壁開口周辺部

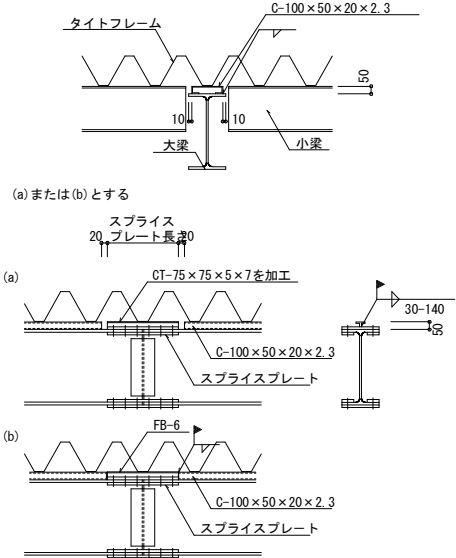
c材：断面リストによる



注) 各部の接合はボルトまたは溶接とする

折版取合関係

1. 折版取合部分詳細図



根太関係

1. 取付位置及び取付寸法

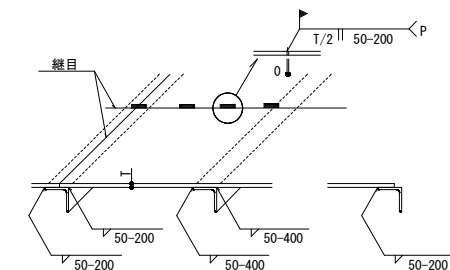
取付方法		断面図	D : 根太のせい g1 : 標準ゲージ a : 根太の頭すき寸法0°10
ボルト使用	梁上 通し形		
	切断形		
溶接	切断形		
	梁上 通し形		

2. 取付部材の寸法(ボルト使用の梁上通し形の場合)

		取付部材(ピース)	
根本のせい	50	L- 50 × 50 × 6	
	60	L- 60 × 60 × 5	
	65	L- 75 × 75 × 6	
	75	L- 75 × 75 × 6	
	90	L- 90 × 90 × 7	
	100	L- 90 × 90 × 7	
	125	L-100 × 100 × 7	
(D)			
取付ボルト	2-M12	p=50 e=25	
	2-M16	p=60 e=35	
	2-M20	p=70 e=40	

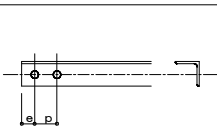
3. 取付部材と梁の接合

4. 鋼板及び縞鋼板の継目の溶接



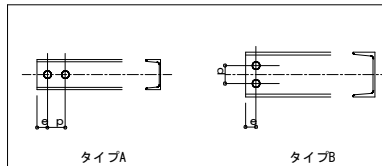
根太・つなぎ材の仕口

1. 山形鋼 (SS400)



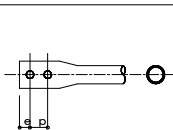
部 材	接 合 部			
	H. T. B	G. P. L	e	p
L- 50×50×6	2-M12	6	35	60
L- 60×60×5	2-M12	6	35	60
L- 65×65×6	2-M16	6	35	60
L- 75×75×6	2-M16	6	35	60
L- 90×90×7	2-M20	9	40	70

2. 溝形鋼 (SS400)

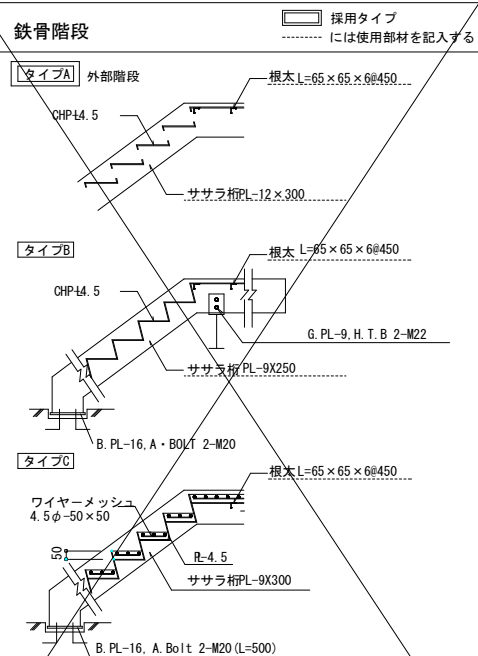


部 材	接 合 部				タイプ
	H. T. B	G. PL	e	p	
[-100×50×5	2-M16	6	35	60	A
[-125×65×6	2-M16	6	35	60	A
[-150×75×6.5	2-M16	6	35	60	B
[-180×75×7	2-M20	9	40	70	B
[-200×80×7.5	2-M20	9	40	70	B

3. 鋼管 (STK400)

[illegible]

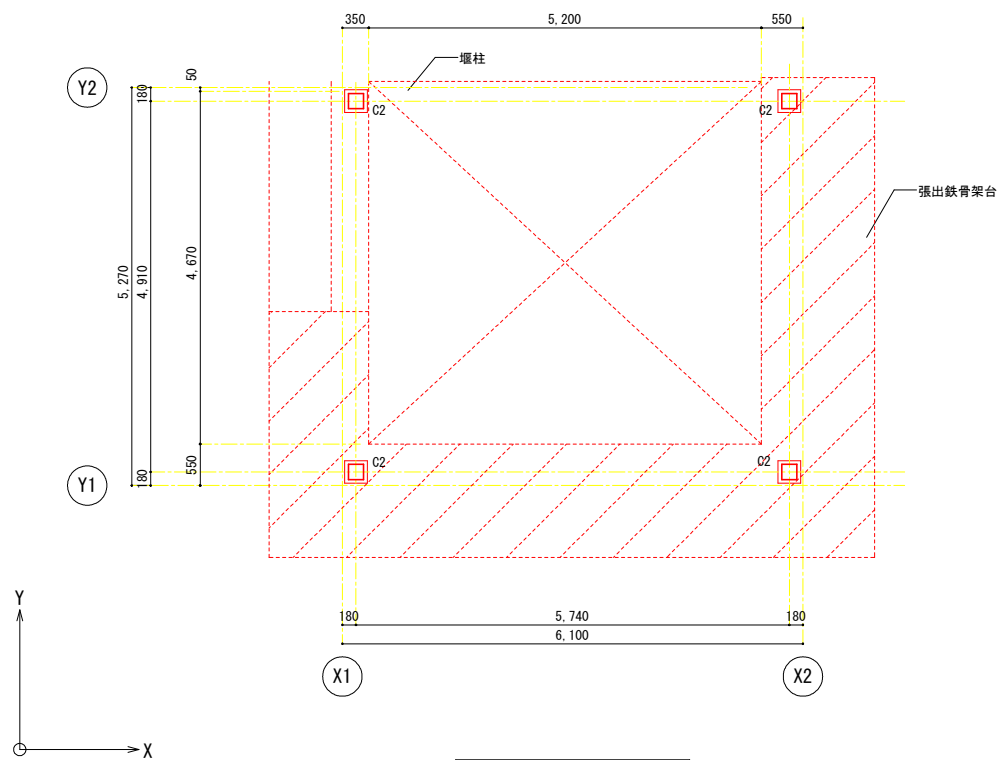
鐵骨階段



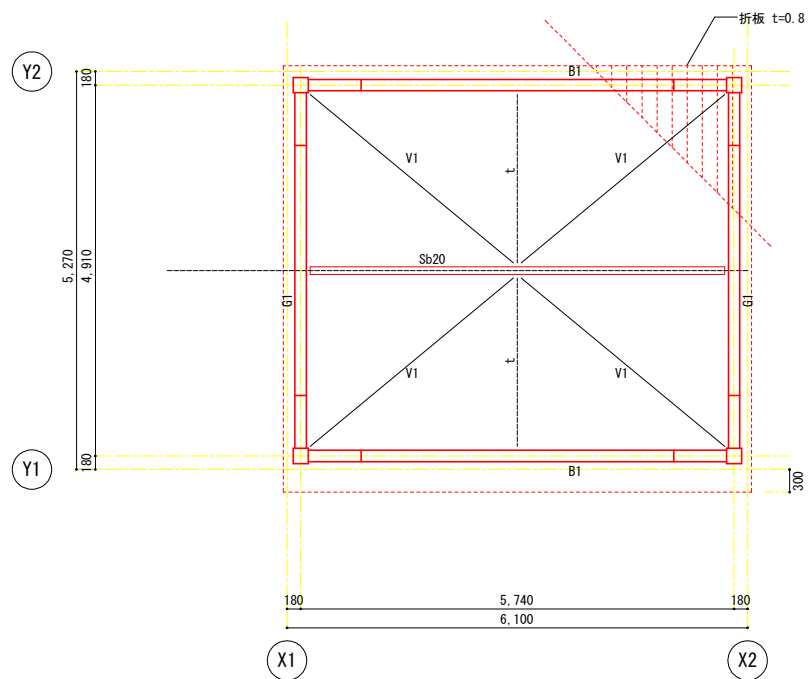
工 事 名	R8 阿南 新田対策 一の堀 操作室改修工事 (後掲)		
路線名等	一 の 堀 地 区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図 面 名	ゲート操作室母屋・明線関係		
縮 尺	-	図面番号	9
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(1/2)

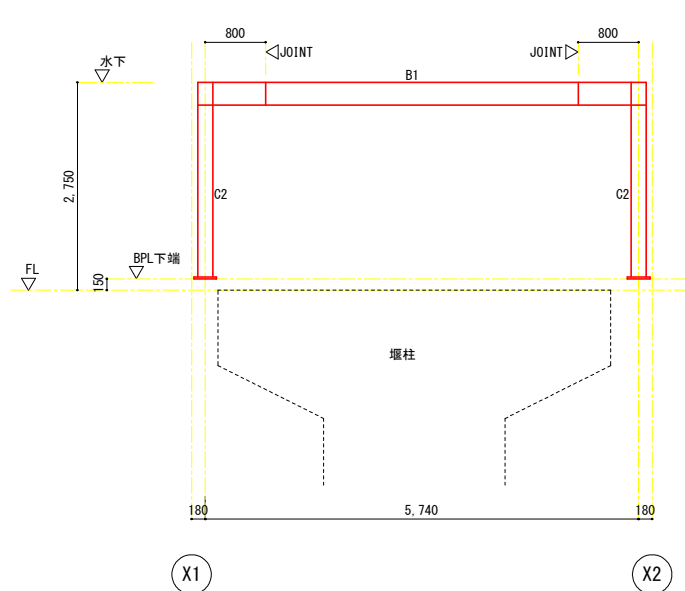
S=1:50



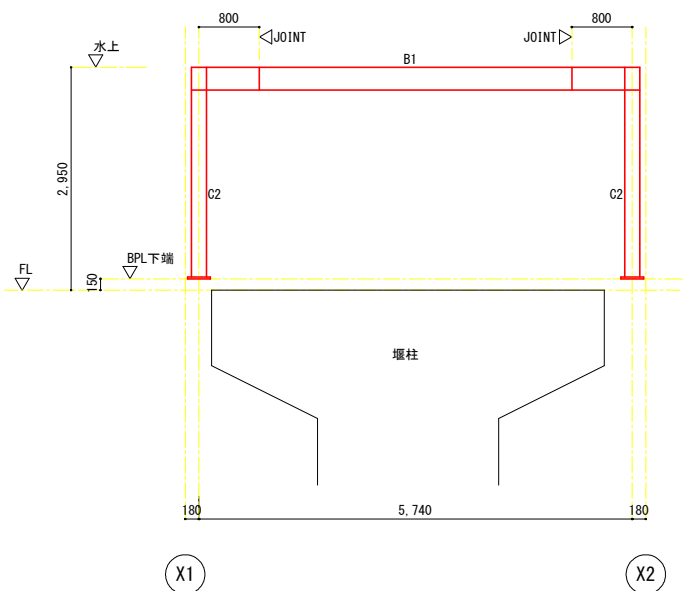
基礎伏図
S=1:50 (A1)
S=1:100 (A3)



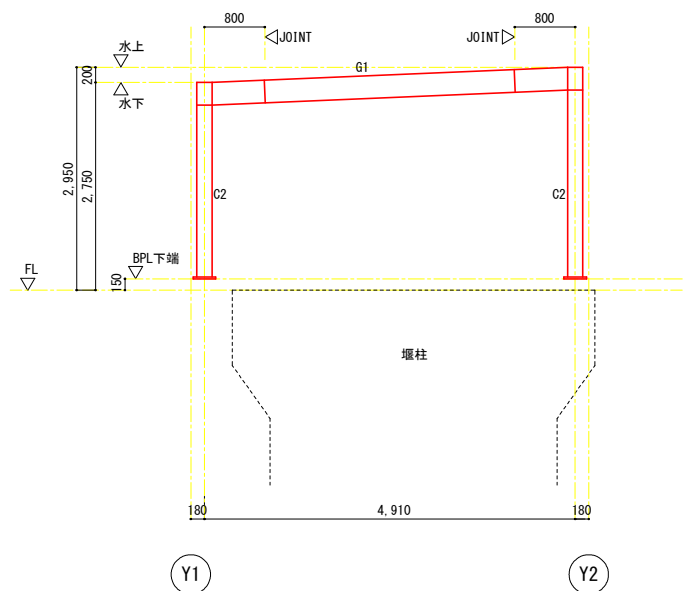
基礎伏図
S=1:50 (A1)
S=1:100 (A3)



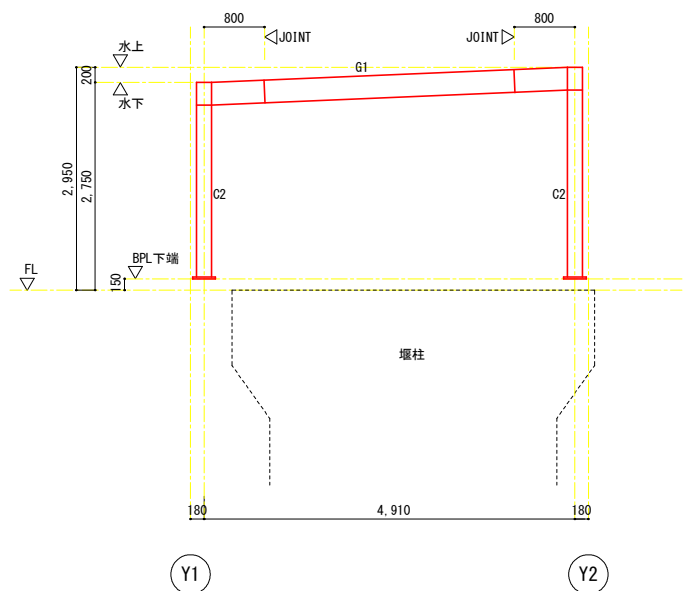
Y1通軸組図
S=1:50 (A1)
S=1:100 (A3)



Y2通軸組図
S=1:50 (A1)
S=1:100 (A3)



X1通軸組図
S=1:50 (A1)
S=1:100 (A3)



X2通軸組図
S=1:50 (A1)
S=1:100 (A3)

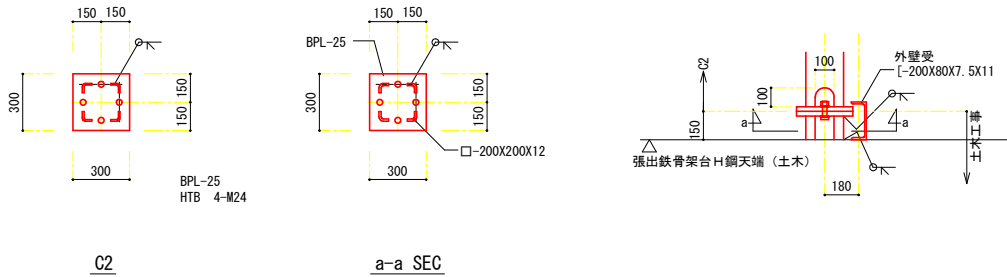
P3

工事名	R8阿南 前園対策 一の堀 操作室改修工事 (補修)		
路線名等	一の堀地区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図面名	ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(1/2)		
縮尺	S=1:50	図面番号	10-1
会社名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(2/2)

鉄骨部材断面表

共通事項 特記なき限り下記とする。 1. 鋼材はSS400とする。 2. 高力ボルトは、全てH T B (F10T又は、S10T)とする。 外部露出溶融亜鉛メッキの場合はH T B (F8T)とする。				
種 別	符 号	部 材	仕 口	備 考
柱	C2	□-200×200×9		STKR400
大梁	B1, G1	H-300×150×6.5×9		
小梁	Sb20	H-200×100×5.5×8	GPL-6, HTB 2-M16	
ブレース	V1	1-M20	GPL-9, HTB 1-M20	SNR400B
座屈止	t	C-100X50X20X2.3	GPL-6, HTB 2-M16	

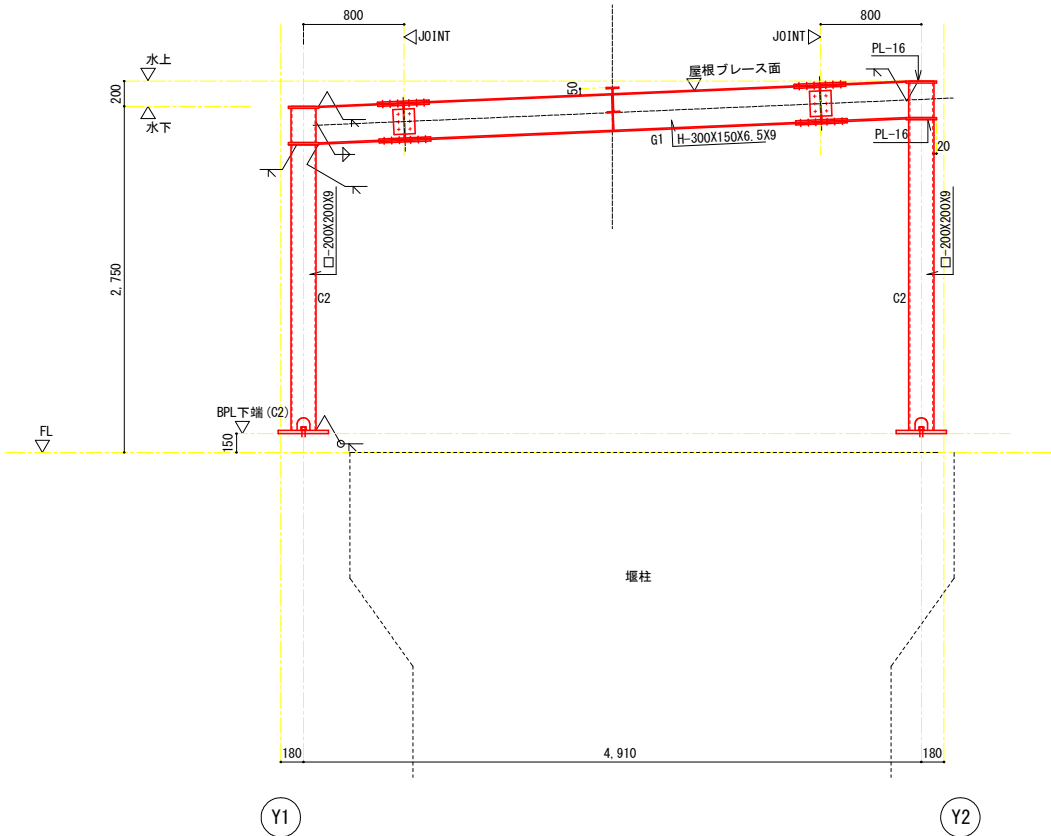


柱脚リスト

S=1:20 (A1)
S=1:40 (A3)

大梁継手断面表

部 材		B1, G1	H-300×150×6.5×9 (SS400)
形状			
フランジ	外側添板	PL-9×150×290 (SS400)	4-M16
	内側添板	PL-9×60×290 (SS400)	
ウェブ		2PL-6×200×170 (SS400)	3-M16



X1通軸組詳細図

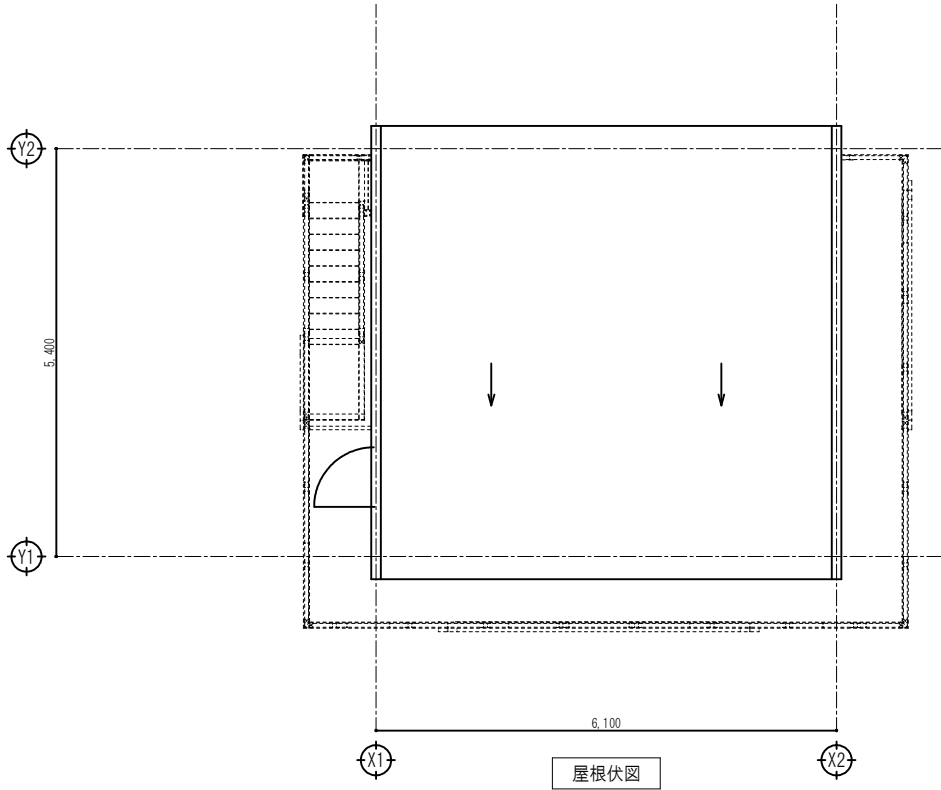
S=1:30 (A1)
S=1:60 (A3)

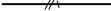
P3

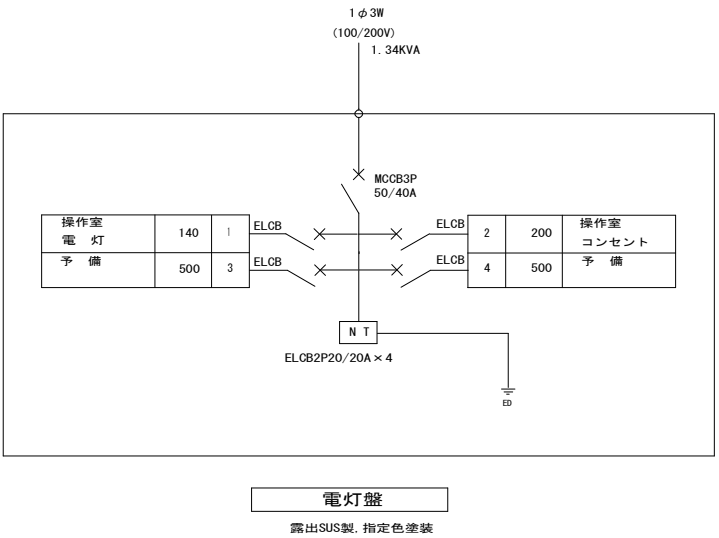
工 事 名	R B阿南 前園対策 一の堤 操作室改修工事 (補修)		
路線名等	一の 堰 地 区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図 面 名	ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(1/2)		
縮 尺	図 示	図面番号	10-2
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		

S=1:50

照明器具参考姿図

[illegible]

注	記（改修後）		
1.	図中特記なき配管記号は下記とする。		
	（電灯設備）		
		EM-1E1. 6 × 2 (G16)	（露出配管）
		EM-1E1. 6 × 4 (G16)	（露出配管）
		EM-1E2. 0 × 2. 1. 6 × 1 (G16)	（露出配管）
	（コンセント設備）		
		EM-1E2. 0 × 2. 1. 6 × 1 (G16)	（露出配管）



P3

工 事 名	R8防犯 新設防犯一の電 作作改修工事 (密閉)		
路線名等	一 の 堀 地 区		
工事箇所	阿南市富岡町		
図 面 名	ゲート操作室電気設備配線図		
縮 尺	図 示	図面番号	11
会 社 名			
事業者名	徳島県阿南農林事務所		